

福井 鯖江  
金子眼鏡店  
ESTABLISHED 1958

特別が日常になる。



函館市末広町17-1 TEL/0138-22-3070  
10:29~19:29  
不定休 駐車場有(元町パーキング12F)  
www.kaneko-optical.co.jp




金子眼鏡の公式サイト

価値ある建築と快適な生活を。



1960年創業の弊社は60余年にわたり、お客様に「信頼」と「満足」をお届け出来る様心掛けて参りました。また、公共建築をはじめ、医療・福祉建築を得意と様々なセミナー等にも積極的に参加して参りました。移り行く現代社会の中、建物においても構造・防火(耐火)・法規・環境・自然災害・人間動作など、少しずつながら変化しています。次世代の技術者を育成しながら、新しい感覚を取り入れ、より新しい視点でこれまでの信頼・実績を損なうことなく、時代の変化に対応し、今まで以上にお客様に満足して頂けるよう取り組んでいきたいと考えております。

株式会社 澄建築設計事務所

本社 / 〒040-0065 函館市豊川町21番7号  
TEL 0138(22)2171 / FAX 0138(22)2173

札幌事務所 / 〒064-0811 札幌市中央区南11条西1丁目5-16  
カサ・ウイスタリア1119  
TEL 011(52)5517




しながき加奈  
ウィメンズクリニック

SHINGAKI KANA WOMENS CLINIC

生理の悩み / 更年期の相談 / 不妊症 / 小児・思春期の婦人科相談 / 子宮がん検診 / プラセンタ / 子宮頸がんワクチンなど

【診療時間】	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00 (受付9:00~11:30)	●	-	●	●	●	-
14:00~17:00 (受付14:00~16:30)	●	-	●	●	●	-
10:00~15:00 (受付10:00~14:30)	-	-	-	-	-	●



【休診】 火・日・祝日・年末年始・お盆  
【診療受付時間】 月・水・木・金 / 午前11:30まで。午後16:30まで。  
土 / 14:30まで。

完全予約制  
ご予約はHPから→



函館市五稜郭町35-12 ブルーミー五稜郭1F  
Tel. 0138-83-2551 URL. https://sk-womens.com

CLIP HAKODATE  
【クリップ函館】vol.14

# CLIP

HAKODATE

【クリップ函館】vol.14

2025 3 - 4  
bimonthly

10年後の  
この街のために  
できること。

HAKODATE

- CLIP ZAPPING
- 河村悦郎
  - 富樫雅行
  - 田柳恵美子
  - 遠藤浩司
  - 志村まり子
  - バゲンダ・ドミニク
  - 荒木あけみ
  - 濱谷綾子
  - 菅一樹
  - デルカーチ・フョードル
  - 青井元子
  - 関口風花
  - 石川久美子
- CLIP GALLERY
- 加藤隼平
  - 櫻坂麻規子
  - 中川大介
  - 夏井俊介
  - 平野陽子
  - 田畑裕旺
  - 小宮伸二
  - 松田夏海
  - はがなつ
  - 大下智一
  - リー・ティ・イエン
  - アリ・ヌハ
  - 谷川真弓子
  - 中村ひでのり
  - KOTOMI
- HIF INFORMATION
- HIFからのお知らせ
- DEAR WOMEN
- 山本倫子
  - 川村幾代
  - フルール・ブロシュエ
  - 新垣加奈
- From H
- 道南のイベント情報イロイロ



TAKE FREE

2025年3・4月号(隔月発行)  
2025年3月1日発行  
発行人 / 池田 誠  
編集人 / 中村ひでのり  
CLIP HAKODATE 編集部  
HAKODATE INTERNATIONAL INFORMATIONAL  
【取材】北海道国際交流センター(HIP)  
040-0054 函館市末広町17-1 TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0960



# 函

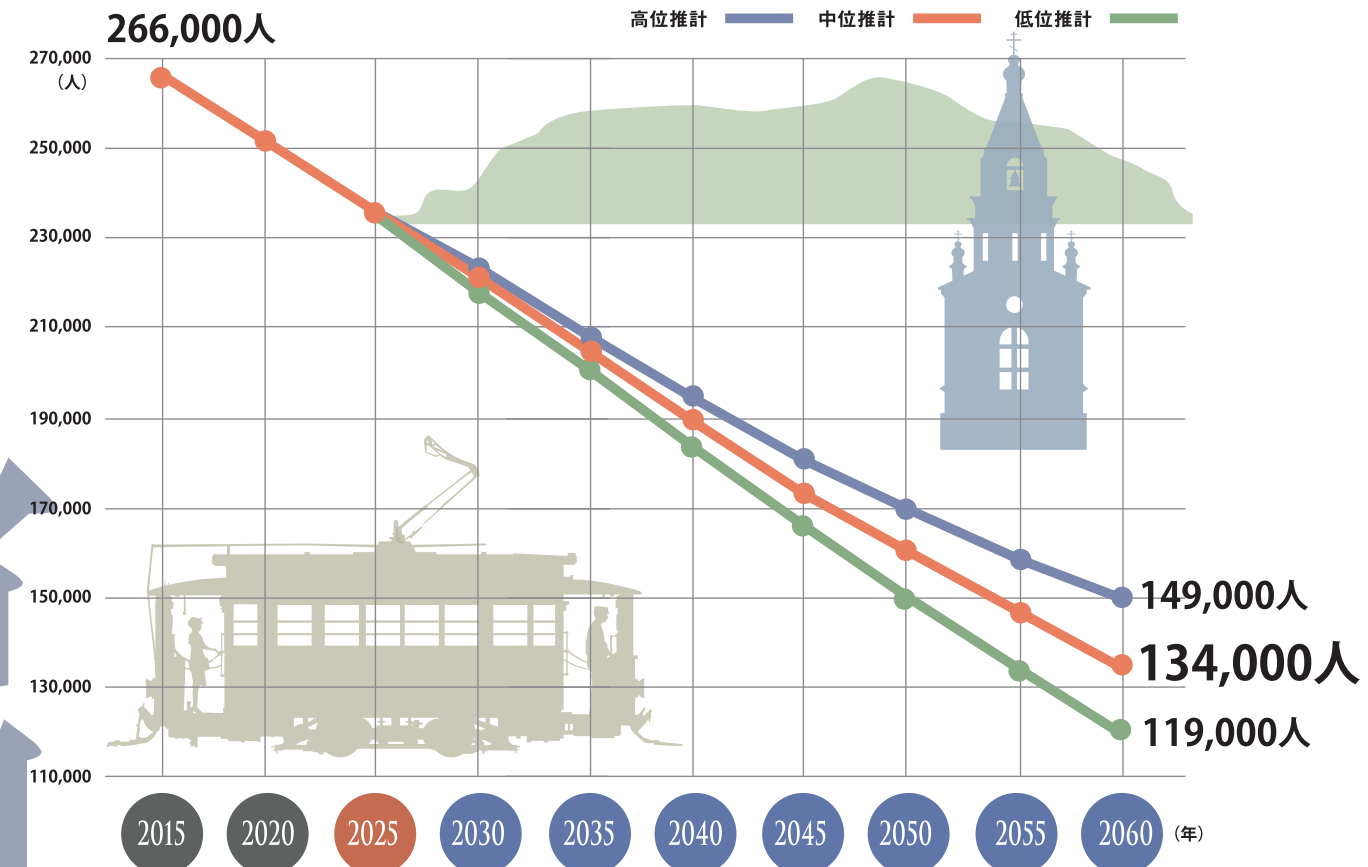
さまざまな分野で活躍する  
12人の方たちに、  
10年後の函館のために  
何をすべきかを伺いました。

## 特集

# 10年後の この街のために できること。

中村ひでのり / 取材・文

【函館市の人口の将来展望】



出典 / 函館市公式サイト

# 函

### はじめに、 余計な話を 少しだけ。

**北** 海道新幹線開業の際、新駅の名称決定にかなり難航したという話は誰もが知るところだが、諦めの悪い私は10年近く経った今でも「新函館」にならなかったことが残念でならない。旧大野町出身で現在北斗市に暮らす自分は、東京に住んでいた頃、出身はどこかと聞かれると函館の近くだと説明していた。大野町だと言ってももちろん伝わらない。それは北斗市となった今も同じ。東京の友人たちは「新函館北斗の“北斗”とはどういう意味だ」と訊いてくる。事情を説明すると誰もが「“北斗”は余計だ」と口を揃える。当時の北斗市長が最初に主張したのが「北斗駅」だったと聞いた時には思わず吹き出した。\*おらが町。をアピールしたいという思いはわからなくはないが、もっと物事を俯瞰で捉え、周辺の自治体が連携して「新函館」を軸に道南の魅力を発信していこう」というぐらいの戦略がなぜ立てられなかったのか。出来たばかりで知名度のない小さなまちの大きなエゴがどういう結果をもたらしたかは、現在の「新函館北斗駅」やその周辺の状況が物語っているように思う。

今話題になっている函館駅への乗り入れについても、本来ならそれが理想だと思う。だがしかし、「それなら早速、函館駅までの乗り入れを！」とは思えない。それを実現し

運営していくための莫大なコストを考えると、それに見合った果実が得られるのか、頭の回転が遅く根っから貧乏性の自分には、どうしても理解できない。それに予算を割くぐらいなら、現状の中でもっとスムーズなアクセスは出来ないかとか、諸々の事情は置いておき、函館市や北斗市、七飯町が協力して「新函館北斗駅」内の施設の充実にか力を注ぎ、到着した客が「はるばる来たぜ函館」と思えるような仕掛けができないかとか、そういうことに知恵を絞る方が得策ではないかと思ってしまう。

函館市が毎月発行する「市政はこたて」2024年10月号で、「人口減少問題」が取り上げられていた。「消えてたまるか」というキャッチコピーと人力車を引く姿の写真が相まって、インパクトのある表紙が目を引いた。

1980年の345,165人をピークに、函館市の人口は減り続けている。下のグラフを見れば2060年には13万人程度になると予想されているが、いやいや10万人以下になるぞという声もある。もちろん人口減少は函館に限ったことではなく、日本という国全体が抱える大きな問題だ。ただ、40年以上前から減り続けているのだから、そのための対策がなぜもっと早い段階でできなかったのかかと思ってしまう。いや、お前が知らないだけでさまざまな手立ては打ってきたということかも知れない。が、この時点で「消えてたまるか」と言っている状況は、テストが近いのに勉強してこなかったと焦っている学生のようにも見えてしまう。

もう選暦も過ぎ、胸ときめく夢や希望なんて一つもなく、待っているのは老後の不安だけという自分は、函館の未来について考えようとしても今一つ力が入らない。やはり、これからの街づくりは、それを生きていく世代に委ねるほうがいい。その際、年齢を重ねた人間は、それまでの自分たちの数多くの失敗から得た教訓を、傳ぶらず、うるさがるに程度にアドバイスするぐらいがちょうどいい。

さて今号は、老後を待つ世代なのか、未来を生きていく世代なのかはひとまず置いて、「10年後の函館のためにすべきこと」をテーマに、さまざまな分野で活躍する12人の方々に話を伺った。(N)

# 河村悦郎

(有)河村工業 代表取締役  
北海道中小企業家同友会函館支部 政策委員長

## 東

京の大学を卒業後、経営コンサルタントとして活躍していた河村さんが故郷函館へのUターンを決めたのは、父が体調を崩したことがきっかけだった。

大学で法学部を専攻し、夜間は司法試験のための塾にも通っていたという河村さんは、自分は法職に就くのだと信じて疑わなかったが、ある時、信頼を寄せる先生から「これから司法試験の制度も変わって、弁護士の数も過剰になる。君の盲信している未来が本当にやって来るのか、精査した方がよい」とアドバイスされた。この言葉を機に「自分は一体何をやりたいのか、何が適性なのか」を再考した河村さんは、高校時代にバンドを組み全国大会で優秀賞を受けるほど打ち込んだ\*音楽、を仕事にしようとする。そして、大学卒業と同時に音楽出版の会社を設立し、活動を開始する。すると河村さんが法学部出身だと知った周囲の音楽関係者から、さまざまな相談を持ちかけられるようになる。それらに助言をしていくうちに、いつしか\*コンサルティング、も会社の業務に加わっていったという。

経営も軌道に乗り充実した日々を送っていた河村さんにとって、東京での生活を捨て函館に戻ることに葛藤もあったが、一人っ子であり、父が創業しここまで続けてきた会社をなんとか手助けしたいと考えての決断だった。

「親孝行という側面はありましたが、ただそれによって自分のやりたいことを犠牲にしたわけではないんです。今の時代、函館にいてもそれまでやっていた仕事は継続できますし、経営コンサルタントとしての目で見えた父の会社は、まだまだ伸び代はあり、やりがいもあるなど純粋に思いました。」



### Etsuro Kawamura

#### PROFILE

函館市生まれ。中央大学法学部法律学科を卒業後、東京で音楽出版事業と企画・デザイン、経営コンサルティングを行う(株)クラウナースデザインを設立。2015年に家業の建築塗装業に入り、2022年4月より現職。その傍らで東京での経験を基に道南地域の中小企業の経営改善を提唱する。

そして2012年に父の会社に入社。2022年春、代表を引き継いだ。函館に戻ってからの河村さんは精力的に活動する。自社の業務はもちろん、北海道中小企業家同友会函館支部の中で、企業の人手不足解消を目的とした政策委員会の責任者として、特に外国人労働者の問題に力を注いできた。

「高齢者、障がい者、女性、外国人など雇用問題の改善について調べていくと、それ以外は様々な施策があるのに、外国人の雇用については十分ではないと感じました。」

減り続ける人口、その影響を\*労働力不足、という形で突きつけられているのが、中小企業の経営者だ。

「函館の人口は、2070年には7万人程度になるかも知れないという予測もあります。ならば、人の数が減るのなら減った数りの街づくりを考えればよいという考え方もあります。そして労働力は生成AIやロボットが補えばいい。でも、生成AIやロボットは生産はしても消費はしません。私たちの社会は、生産し、消費し、そしてという関係で成り立っています。つまり人がいなければ維持できない社会なんです。地域を継続していくには間違いなく\*人が不可欠です。しかし、この先、出生率の急激な上昇は見込めません。そうなる、やはり外国人を積極的に受け入れるべきだという結論になります。」

かつて30万の人口を抱えていた函館は、多くのインフラを抱えている。今後、それを少ない人数で支えるのは難しい。必ず、維持できなくなるという分水嶺が訪れる。それがもう見えている状況なのだと言っている河村さんは言う。

「日本では、すでにおおぜいの外国人が生活しています。それなのにまだまだ法整備は後手に戻っていて、矛盾も多い。ベトナムへ行った時、現地のある若者が「日本に好感は持っているが、仕事をしにくい場所」として魅力的ではない」と話すの聞き愕然としました。また、函館で仕事を探そうとする外国人の方が「英語を話せるのなら、ホテルか英語の先生は？という話ばかりで、この街には仕事の選択の幅がない」と嘆いていました。日本人がそうであるように、自分の適性に合ったやりがいのある仕事に就きたいと思うのは外国人だって同じです。もう、「どうぞ来てください」と言っても、「はい、そうですか」と彼らが簡単に来てくれる時代ではありません。函館の中小企業が労働の場として彼らから選ばれるためには、早急に対策を打たないとけません。」

では、函館の中小企業が彼らから選ばれるには何が必要か。それは企業が積極的に攻めの戦力と考え、成長していくことだと河村さんは考える。

「例えば、自社の製品の販売先として、もっと海外に目を向けるべきです。Eコマースでもいいし、海外に拠点を作るでもいい。その際、外国人は大きな力になります。そして外資を稼いで内需を拡大していく。それがこの地域を良くしていくことに必ずなると、私は信じています。」

函館は元気がないと言われる責任の一端は、中小企業にあると河村さん。「中小企業はこれまで魅力ある仕事を作ってこられなかった。だから若者もこの街に残らない。それは外国人も同じです。働きたいと思える仕事がなかったら、外国人だってこの街にやって来ません。」

### Masayuki Togashi

#### PROFILE

愛媛県生まれ。5歳から千葉県市原市で暮らし、高校卒業後は北海道東海大学に入学・芸術工学部建築科を専攻。その後、二本柳慶一建築研究所、五十嵐淳建築設計、小澤建築研究室を経て、2012年に独立し、富樫雅行建築設計事務所を設立。



## 大

学で建築を学んでいた富樫雅行さんが、初めて函館を訪れたのは18歳の時、旭川から新潟に向かう途中、夜行列車に乗り、早朝函館駅に着いた。その旅で目にした西部地区に残る古い建築物と街並みは、富樫さんの目にとっても魅力的に映り、印象深いものだったという。

それが理由というわけでもないのだろうが、大学卒業後、富樫さんが建築家としてのキャリアをスタートさせたのは函館市内の設計事務所。その後、一時は道内の他の町に移ったが、2004年に再び函館へ戻る。そして、自身の設計事務所を立ち上げたのは2012年のことだ。

以前から活動のベースは西部地区で決めていた富樫さんが、仕事場として最初に選んだのは、弥生町・常盤坂の途中にある昭和10年に建てられた古民家。物件探しをしている中で、一目惚れした家だった。

相応に老朽化も進んでいたが、まず基礎を手直しし、耐震と断熱のための改修を施した。「使えるものができる限り無駄にしない」という富樫さんの考えから、壁に貼られていた秋田杉を天井材に使い、畳の下に敷かれた古い木材も床材として再利用した。水回りの古いタイル、屋根裏に残されていた函館の老舗の店の名が入った木箱や木札、そして解体の際に出た釘さえも一本一本手作業で伸ばして使用するという徹底ぶりだ。そして、完成後に行ったオープンハウスは話題を呼び、おおぜいの見学者が訪れた。そして富樫さんのもとには、古民家を再利用したいといった相談が多数舞い込み始めることになる。

これまで、さまざまな物件を手がけてきた富樫さんだが、「古民家再生」が一つのブームのようにになっていることには違和感もある。修繕費もかさむし、耐震性や寒さに不安を感じて敬遠するケースも多い。建主には古民家を利用することの意味を慎重に考えて欲しいと思っている。

数年前、富樫さんは末広町の「臥牛館」という築100年を超える4階建ての建物を購入。それをリノベーションして、学童の運営などを行っている法人に譲り渡した。現在、この建物には学童の他、カフェや事務所、カルチャー教室などが入居している。また、現在富樫さんの事務所がある建物も、以前は飲食店だったものと同じようにリノベーションして「航路(kohro)」という複合施設にした。

「一軒の古民家のリノベではなく、街中の古い建物をリノベーションすることで、人が集まる場を作り、それがやがて街の再生へと繋がっていけばという思いから始めた取り組みです。それに、古くても魅力のある建物がいま放置され、やがて壊されていくという状況を、ただ指を咥えて見ているだけなのは辛い。ならば自ら建物を購入し、それをリノベして新たな価値を生み出し、次の担い手に引き継ぐことで、\*はしご再生、したいと考えました。「臥牛館」や

「航路」は、そのためのトレーニングのようなものでした。」

ただ、人の数がどんどん減り、空き家も増え続け、街が衰退していくといった状況の中、「古い建物の再生」に頑張っても、それには限界もあると感じている。

そして、10年後の函館のために今何が必要かという問いに、「今、僕の一番の関心事は、空き家を畑に、空き家をハウスにすること」という答えが返ってきた。

「老朽化した空き家が放置されたままだったり、壊されて駐車場になっていたりします。そうやって街の風景が変わり続けている。ならば空き地を畑に、空き家を苗作りなどのハウスとして活用できないかと思いました。」

きっかけはゴミ。特に生ゴミの問題について考え始めたことだった。

「毎日大量に出る生ゴミが多く焼却されているということに疑問を持ったんです。それを解消する一つの方法として、肥料にするという手段があります。そして肥料にしないという富樫さんの考えから、壁に貼られていた秋田杉を天井材に使い、畳の下に敷かれた古い木材も床材として再利用した。水回りの古いタイル、屋根裏に残されていた函館の老舗の店の名が入った木箱や木札、そして解体の際に出た釘さえも一本一本手作業で伸ばして使用するという徹底ぶりだ。そして、完成後に行ったオープンハウスは話題を呼び、おおぜいの見学者が訪れた。そして富樫さんのもとには、古民家を再利用したいといった相談が多数舞い込み始めることになる。」

例えば、ヨーロッパなどで多く見られるものに「コミュニティガーデン(地域の庭)」がある。これは地域に暮らす人たちが自主的に集まり、花や野菜、果物、ハーブなどを栽培するオープンスペースのことだ。学校や病院などの共用スペースの他、空き地や未使用スペースが活用され、場所も大きさも地域によって多様だ。富樫さんがイメージしているのは、こういったものなのかも知れない。

富樫さんは、この試みのために自ら畑づくりを決意。町内会や市役所などにも相談し、西部地区の外れにあった雑木の生い茂る空き地を購入した。木を切って根を掘り起こし、それらしい体裁にはなってきたが、畑として利用するまでの道のりはまだ遠い。作物を栽培するための土づくりはこれからのことだ。他にもクリアしなければならぬ課題は山のようにある。それでも、富樫さんなら結果を出せるのではと期待してしまう。

合同会社  
代表社員

富樫雅行建築設計事務所

# 富樫雅行





# 田柳恵美子

社会や時代という外側の状況が変わる「環境主導」の変化ではなく、一人ひとりの個人が内面の多様性を発揮していくことで、逆に社会や時代が動いていくことができます。そういった「個人主導」の時代になっていくと語る田柳恵美子さん。昨年春、公立はこだて未来大学を定年退職した現在も、名誉教授・特任教授として籍を置いている。

個人主導の時代。それは、言い換えれば一人ひとりが社会のコマだった時代が終わり、社会を生きる全員が主役となり得るということ。情報技術が飛躍的に進化した今、それを可能にする仕掛け、仕組みも出来上がっている。そして、そういった変化への意識を、社会がはっきりと持たなければいけないと田柳さんは言う。

「昔は年功序列で、組織や社会の中で世の中の仕組みを知ってなんぼだったものが、逆にそんなものを知らない方が有利になる。自分軸で世界を変えていける。これからはそういう時代なんです。街をどうする、政策をどうすると言って、もう何十年も行き詰まっていますよね。地方分権が進められ、人口も減り、財源も薄くなっていく。これはもう仕方ないことです。物理的に目に見える「できること、やれること」の限界が大きくなっています。昔のように、トップダウンで湯水のようにお金のシャワーを浴びせて街を変えていく、そんなことは非現実的な夢の夢です。ですから、自分の外側に期待する非現実的な夢で



## Emiko Tayanagi

**PROFILE**

神奈川県生まれ。出版編集やPR企画、研究広報・研究評価のコンサルティング等に携わりながら、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士課程を修了。博士(知識科学)。2008年より公立はこだて未来大学特任准教授、2013年より教授、2024年3月同大学を定年退職後、名誉教授・特任教授として教員や大学・高専生、高校生などのスタートアップ教育・起業化支援に携わる。



旅館ホテル旅館業組合の理事長を務める遠藤浩司さんは、高校卒業後、(株)プリンスホテルに入社。そこから40年以上に渡りホテル業界に身を置いてきた。

最初の勤務先は大沼プリンスホテル。その後、札幌、東京、釧路、弟子屈町、そして屈斜路湖を最後にプリンスホテルを退職。2005年、函館にUターンした。

プリンスホテルといえば西武グループ傘下のホテル・レジャー事業会社で、1980年代、大規模リゾート開発や首都圏でのシティホテル事業を展開したことで知られているが、活況を呈していた当時の状況を、遠藤さんは社員の一人として体感していたことになる。

現在、遠藤さんが代表を務める「函館元町ホテル」(函館市大町)は、土方巖三ゆかりの場所に建物を購入し、宿泊施設に改装、2007年にオープンしたものだ。

1989年の青函トンネル開業を機に函館への観光客数は増えていたが、その後も函館空港への国際便の乗り入れやインパウンドの増加、北海道新幹線開業など、観光業界にとっては好材料が続き、ホテルの建設ラッシュも起きたほどだ。そんな追い風に乗って遠藤さんの経営も順調だったが、突然、最悪の事態が起きる。

「コロナ渦では完全に営業がストップし、とても大きなダメージを受けました。私も長い間この業界に関わっていますが、もちろんあのような経験は初めてです。ホテルばかりではなく、飲食店などのサービス業はみなさん大変だったと思います。いつお客さんが戻ってくるかわからないというのがとても辛いことです。今ようやくコロナ前の賑わいを取り戻して、みんなほっとしていると思います。

遠藤さんが函館に戻り、ホテルを開業してからもうすぐ20年。その間にさまざまな変化もあった。

「社

ではなく、自分自身の夢を見ようと言うことなんです。駅前再開発で『かつての大門の賑わいを再び』なんて声もありましたが、そんな物理的にあり得ない話は、次の世代に対してあまりにも無責任ですね。

現在、宝来町に暮らす田柳さんの目には、西部地区にこれまでと違った変化の兆しが少しずつ見え始めていて、それがリンクし大きなものになっていくことを期待していると言う。例えば、地産地消を志向する自然派のカフェやレストラン、八百屋、生産者…。そしてそれらをつなぐイベントなどが増えている。また、特定のオフィスなどを持たない働き方をする「ノマドワーカー」と呼ばれる外国人が住み始めてもいるという。

「実は、若い世代にカリスマ的な人気を持つ環境音楽系のミュージシャンも移り住んでいて、その周りに知人友人がさざらに移住してくるといった、人と文化のクラスターが少しずつできたりしているんですよ。」「人口減少を逆手にとって、街の機能を複合化させていくことも一つの方法だ。」「例えば青柳小学校ですが、最近予想外に児童の数が増えて、以前からあった統合廃校の話がいったん保留になっていると聞きました。もちろん、子ども全体の数は減っているので、スペースに余裕はあるはずですから、学校に色々な街の機能を埋め込んでいくのはどうでしょう。社会福祉や教育だけでなく、起業を支援する経済拠点だったり、遊びや趣味の文化・社交拠点であっていい。街の人たちがお酒を飲んだり、音楽を楽しんだり、そこにゲストハウスが併設されてもおもしろい。それは地域の新しいコミュニティの拠点にもなります。場合によっては、学習を兼ねて子どもたちが英語を使って運営するなんてことがあってもいいと思います。大事なものは、こうでなくちゃいけないという縦割りの縛りや境界、これまでの常識を取り

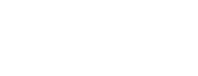
払って、人間社会の可能性を最大限に引き出すような空間活用を考えていくことが重要なんです」。

他にも、「まちづくり」「雇用」「観光」「教育」の4つのテーマについて、足早にご意見を伺った。

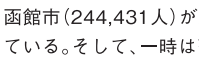
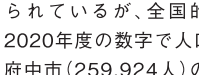
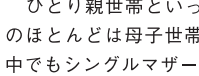
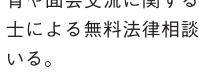
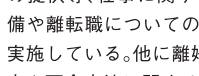
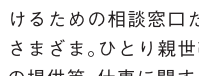
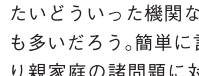
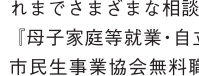
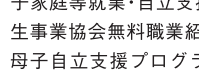
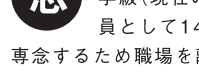
「まちづくり」公民連携を本気で進める。それには行政にも、民間にもちゃんとしたタレントが不可欠。だが、残念ながら人材不足。まずは大きいことは考えず、小さくてもできることからやっていく。「雇用」これからは「雇われて生きる」のではなく、自分を活かせる、自分から発信できる仕事に就く人が増えてほしい。

「観光」オーバーツーリズムだということはあるが、そうは思わない。インフラやソフトの工夫でまだまだ伸び代はある。観光業が縦割りに孤立してはならない。「教育」小学生中学生レベルから社会との接点を増やした方がいい。これからは、ただ学校を出て進学や就職という単線的な生き方ではなくっていく。社会が子どもたちの挑戦を応援していく場が変わっていかなければならない。

「とにかく、大人が威張らない社会になってほしい。函館の悪い慣習を知り尽くした人たちが偉そうに威張っている社会が続く限り、この街から若い人が去っていくのは止められないでしょう。大人が子どもをリスペクトする社会があって、初めて未来の可能性が開いていくと思います」。



# 志村まり子



に見えた数字が、最近また増え始めているようだ。

「函館に暮らす夫婦が離婚をして、子どもを母親が引き取るといった場合ももちろんありますが、女性が札幌や東京などの都会に出て、結婚し、その後離婚をして小さな子どもを連れて戻ってくるといったケースもあります。中には、籍の入っていない男性の子どもを妊娠し、一人で戻って出産するという場合もあります。小さな子どもを抱えて生活することを考えると、生活費の高い都会で暮らすよりも、親元に戻った方が…ということでしょうか。

以前は、夫からのDV(配偶者や恋人などから振るわれる暴力)の相談が多かったが、2013年、配偶者暴力防止法の改正を機に、その相談件数は減少した。ただし、それが必ずしも被害件数の減少とイコールではないでしょうと志村さんは言う。また、以前とは相談者の意識が変化しているように感じることがある。

「例えば、シングルマザーである自分はこういった手当が受けられるのか？その金額はいくらぐらいなのか？生活保護を受けるための条件は？といった、行政からの支援ばかりを気にする方が増えているように感じます。相談者の中には、『行政が支援するのは当たり前』と口にする方もいます。もちろん、子供が小さかったり、自分が病気がちで思うように働けない方など、逼迫した状況の方への支援は重要で。でも、自分が健康で働けるのなら、どうやって自立を目指すのかをまず考えて欲しい。函館には、そのためのさまざまな制度、例えば就労のための資格取得を後押しするようなものなども充実しています」。

函館にとって、ひとり親世帯への対策はとても大きな課題だ。ただ、その解決のために行政ができることには限界もある。やはり一人一人が、親として、社会人としての自覚を持たなくてはいけないし、同時に、ひとり親世帯を地域のコミュニティーが応援するといったような、何某かの仕組みができなしかと志村さんは考える。

「私が子どもだった頃は、おじいちゃんやおばあちゃんといっしょに3世代で暮らす家もたくさんあった時代です。町内会や子ども会もまだ機能していました。近所の子どもが悪さをしているのを見かけたら正しく叱り、何か困っているようなら声をかける、そんな大人がちゃんとして、子どもは地域のみんで育てるものといった雰囲気がありました。それを今の時代に求めることはなかなか難しいと思いますが、今だからこそ必要だと思いますし、でなければそれに変わる何か新しいカタチのコミュニティーづくりができればいいと思います。

子どもは親の言動をよく観察しているものです。両親がいようと、一人親であろうと、親の頑張る姿を見ることは、子どもの成長にとって、とても大切なことです。函館の未来にとって大切なことは何か。志村さんは「子ども」と「雇用」だと考える。「仕事があれば、人は街を離れていきません。そこで行政には企業誘致を頑張って欲しいです。また、子どもたちが元気で育ち、楽しいと思える街になって欲しいですね。」

## Mariko Shimura

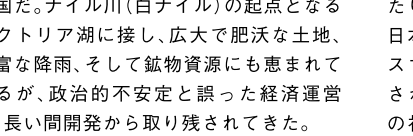
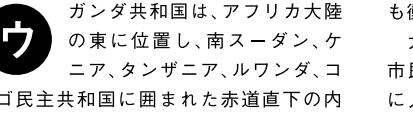
**PROFILE**

7飯町生まれ。北海道教育大学函館校卒。小中学校、特殊学級(現在の特別支援学級)を14年担任。その後、子育てに専念するために退職。2004年11月より、母子家庭等就業・自立支援センターに勤務。現在に至る。

## Bagenda Dominic

**PROFILE**

ウガンダ共和国生まれ。マケレレ大学を卒業後、同大に教員として勤務。2003年北海道大学大学院水産科学研究院に留学。2009年より公立はこだて未来大学准教授、函館アフリカ支援協会理事。在日ウガンダ人の会理事。現在、妻と4人の子どもとともに函館市内に暮らす。



も衝撃を受けました」。

大袈裟な話ではなく、ウガンダの一般市民にとって、車やバイク、家電などを手に入れることが、生きるための目標だったりするとバゲンダさんは言う。それが、日本では子どもでさえ高価なゲーム機やスマホを持っている。なのにみんな満たされず、さまざまな悩みを抱えているこの社会の現状は、バゲンダさんのそれまでの価値観を大きく変えた。「ウガンダは、国としての機能もインフラ整備も、まだまだ遅れています。仕事もなく、毎日ただのんびりと近所の人と井戸端会議をして一日を過ごす、といった人がおおいいます。日本人には理解してもらえないかも知れませんが、それでもなぜか生活できるんですね。気候にも恵まれているので食べることもあまり困らない。みんなお金はないけども安定し、経済も上向しているものの、まだまだ発展途上の国であることに変わりはない。

この国に生まれたドミニク・バゲンダさんは、現在、公立はこだて未来大学に准教授として勤務している。

バゲンダさんが初めて来日したのは2003年。ウガンダ国内の大学を卒業後、同じ大学で教員として学生の指導にあっていたバゲンダさんが、北海道大学大学院水産科学研究院への留学を決めたのは「飯寿司(いずし)」の研究が目的だったという。

「私はウガンダの大学で、漁業について研究していました。ウガンダは内陸国なので海はありませんが、ヴィクトリア湖やキョーガ湖、コンゴとの国境にまたがるアルバート湖など、たくさん的巨大な湖があり、漁業が盛んに行われています。ただ、獲った魚が余れば全て廃棄してしまう。電力事情もあって冷凍することもありません。かと言って必要な量だけ獲るといった意識もない。資源に恵まれている分、『また獲ればいい』と誰も気にしないのです。そういう状況をなんとかしたいと思って色々調べてみると、日本が魚の保存技術に優れていることを知りました。特に私が興味を持ったのが、魚を発酵させ保存する「飯寿司」だったんです」。

では、北大水産学部で発酵の研究をしていたバゲンダさんが、なぜ畑違いとも思える公立はこだて大学で教鞭をとることになったのかは次の機会にするとして、バゲンダさんには、来日してすぐに衝撃的な出来事があったという。

「函館にやってくる前に、札幌の北大本部で4カ月間、語学研修を受けたのですが、その際に宿泊施設として紹介されたのが恵迪寮(けいてきりょう)でした。初めて寮へ案内された時、入り口の脇にたくさんのお菓子や家電製品が山積みになっていて、『これはどうしてここに置いてあるんですか?』と尋ねると、捨ててあるのだと言うんです。今思えば、ちょうど卒業生たちが寮を出ていく時期で、不要になったものを外に積んであったのでしょう。恐るおそるその中のCDプレーヤーをもらってもいいかと尋ねると、勝手に持っていると言われました。部屋に入り、スイッチを押すと問題なく使えるものでした。私の国では、このCDプレーヤー欲しさに人が殺されたりするんですよ。それらが国で使え、また使えるのに簡単に捨てている。これにはとて





# 荒木あけみ

10年後の函館の状況を、「上昇していく」「現状を維持する」そして「下降していく」という3方向のベクトルで考えた時、人口という切り口で考えれば確実に下降していくことになると思います。そう語るのは、2015年の初当選以降、函館市議会議員として活動を続けてきた荒木あけみさんだ。

函館市松風町で生まれ育った荒木さんは、市内の高校から東京の大学へ進学。卒業後はマーケティングリサーチ業界でキャリアを積み、2010年に函館へUターン。その後「はばたきの会～道南 女性の自己実現を支援する会」を立ち上げ、主に女性の自己実現を支援するための活動に力を注いできた。

少子高齢化・人口減少は函館市に限ったことではない。全国の多くの自治体がこの問題に直面している。昨年の秋、荒木さんは九州のいくつかの自治体を視察のために訪ねた。そしてその中には、人口5万人ほどだが住民たちの満足度も高く、とても豊かに暮らしているように見える町などもあり、学びの多い機会となった。「もちろん、人口が増えていくことが望ましいのは確かです。函館市も人口減少対策本部を設置して、事業に予算を投じて取り組んでいます。ただ、それに見合った成果を出すのは容易なことではありません。現在、人口問題の対策の柱として全国の自治体が行なっているのが子育て政策ですが、それがベッドタウンでもない函館にマッチするのかなと、それには疑問もあります」。

荒木さんは、人口減少を悪だと捉えそれに抗うことに注力するよりも、函館という街の魅力、そして市民の幸福度のベクトルをどう上げていくかを優先すべきだと考えている。これらは全くリンクしていない話のようだが、もしもそれが上昇していけば結果的に人口の下降スピードを抑えることにつながるかもしれないと言う。

「財政調整基金という、簡単に言えば函館市の貯金といえるものなのですが、これがどんどん減っているという状況です。一時は約92億円あったものが、令和8年度末には54.7億円ほどになると試算されています。これは現在ある行財政改革のプログラムが全て到達できたとしての数字です。ですから、根本的な予算編成の見直しが必要だと思います。関西から移住してきたある知人が、「函館は私が以前住んでいた街よりも、福祉サービスも充実していてメニューも多い」とおっしゃっていました。確かに函館の行政サービスはある程度充実していると思います。ただ、全てを総花的にやるのがベストなのだろうかと私は思います。限られた予算の中で、どうメリハリのつけた政策を行なっていかか求められています。そのためには「ここには力を入れるので、ここは少し我慢してほしい」と、市がしっかりと発信し、市民に理解を求めていくことが大切です。また、企業誘致という話になると重厚長大なものを求めがちですが、現実的かつ具体的に絞り込んだ戦略を立てなければなりません」。

では、10年後という決して遠い先ではない時間軸の中で、函館の魅力を上昇させるために何をすべきかと考えた時、多額の予算をかけるまでも実現可能なコンテンツの数を増やすことが必要だと荒木さんは考える。

「昨年、ある国際的なゲームのイベントが開催され、世界各地からたくさんの方が函館にやって来ました。そしてみなさん好印象を持たれて帰られたという話を耳にしました。このような機会を受け身ではない、函館からどんどん仕掛けていけばいい。「プームを追うのではなく、プームを作っていく」ぐらいの気概を持って取り組むことが大切だと思います」。

荒木さんは今年、市議会議員となって10年を迎える。この間に実現できたことと実現できなかったことを振り返れば、歯痒い思いもたくさんある。そしてこの先の函館を思う時、活動をスタートさせた10年前よりも、目指すものがクリアになっていると感じる。

「このままのペースで行くと、20年後の函館の人口は16万人程度になると予測されています。実は100年前の函館の人口も約16万人でした。この「16万人の街・函館」が、どのように幸福になっていくのか。その目指すべき先を、スピード感を持って、しっかりと絞り込んでいかなければならないと思っています」。



## Akemi Araki

### PROFILE

函館生まれ。道愛女子高校卒業後、お茶の水女子大学へ進学。社会人となってからはマーケティングリサーチの会社へ入社。海外13カ国(アジア、アメリカ、中東)にて、消費者・企業のマーケティング調査を担当した。2児の母。夫は東京に単身赴任中。特技は「犬と赤ちゃんには嫌われないこと」

## Ryoko Hamaya

### PROFILE

函館市生まれ。市内の短期大学卒業後、株式会社ニューメディア函館センターで番組制作に携わった後、上京。4年間の東京生活を経て函館に戻り、前職に復帰。現在「青春！ハイスクール」「GO!GO!はこだてモルック」などの番組制作、撮影を担当。



N CV(株式会社ニューメディア函館センター)のチャンネルで、毎日11:55～、16:30～、19:40～に放送中の「青春！ハイスクール」、そして毎週月・水・金曜日、13:00～放送中の「GO!GO!はこだてモルック」の制作、撮影を担当する濱谷綾子さんは、現在、2人の子どもの母として消防署に勤務する夫とともに、仕事と子育てに奮闘する毎日を送っている。

市内の短大を卒業後、NCVの番組制作の仕事に就いた濱谷さんが担当した番組の一つが「街ナカ情報発信!」でてけおじゃマップ」。現在も放送中のNCVの人気情報番組だ。これは函館のグルメ情報や休日の過ごし方を提案するといったもの。この番組のレポーターとして、函館市内や近郊の飲食店、プレイスポットなどを訪ね、紹介するのが濱谷さんの仕事だった。

「本当は人見知りで、人前で話すのもあまり得意ではなかったんです。だから、最初はすごく緊張していました」と言う濱谷さんも、やがてカメラを向けられることにも慣れ、仕事も楽しくなっていったと言う。「常にアンテナを張って、情報誌や友人らの噂には敏感になっていました。新しいお店ができたとか聞くと、すぐに様子を見に行ったりもしていましたね」。

そんな濱谷さんだが、6年間勤務した後、函館を離れた時期がある。

「それまで函館を出たことが一度もなかったですが、実家暮らしだったので、一度都会の一人暮らしがどんなものか体験してみたかったんです。昼間は渋谷のNHK放送センターで派遣社員として働き、夜はスポーツバーでもバイトしていました。朝、近所をジョギングしたり、休日はおしゃれな雑貨屋さんやカフェ巡りをしたり、楽しかったですよ。でも、遠く離れたところから客観的に函館を思うと、やっぱりいい街だなあと再確認して…。そして「東京生活も満喫したし、そろそろ戻ろうかな」と思ったんです。誰か好きな人でも見つかっていたら、違っていたかもしれませんがね(笑)」。

4年間の東京暮らしを終え、函館に戻った濱谷さんは、再びNCVで働くことになる。「出戻りの娘を捨てていただいたという感じですが、東京での経験は自分を成長させてくれたと感じていましたし、それが仕事に生かせたらと都合よく解釈し、もう一度頑張ってみようと思いました」。

その後、間も無く結婚。2度の出産を経験しながら、仕事にも打ち込んできた。「母親となって見る函館は、やはり以前とは違う部分がたくさんあります。子どもの医療費負担のことや延長保育の問題など、行政サービスの情報などにも敏感になりました。また、独身時代は気づかなかった



# 濱谷綾子

(株)ニューメディア函館センター  
業務部コンテンツ制作課

のですが、函館は休日に子どもを連れていく場所を見つけるのが大変です。都会なら動物園や博物館など、子どもの情操教育のためになる施設が充実していますが、函館は人口20万人を超える街にしては少ないように感じます。もちろん、すぐ行ける距離に山や海があってすごく恵まれていることはわかりますが、冬は長時間屋外で過ごすせませんし、もう少し子どもを意識した施設があってもいいように思います。私は最近、あえて函館山の夜景や五稜郭公園などの観光スポットへ子どもたちを連れていこうにしているんですよ。逆に地元に住んでいるとなかなか行く機会がないように思いますが、小さいうちにこの街の風景をしっかり目に焼き付けて欲しいと思うんです」。

現在、濱谷さんが担当する「青春！ハイスクール」は、高校生にスポットを当て、インターハイの出場を目指して頑張る体育会系の部活動や、自分の技術を磨き続ける文化系の活動を紹介する番組だ。その取材過程で、過征費の負担の大きさと、中学卒業後に函館を離れ遠方の強豪校へ進学する子どもたちの存在と、親たちの苦労も知った。

「東京に住んで感じた函館と、結婚して母親となって向き合った函館、そのどちらもこの街を冷静に見つめるきっかけとなっています。10年後、この街がどうなっているかわかりませんが、成長した私の子どもたちが、やがて函館を離れるという選択をするかもしれません。ただ、どこへ行っても函館を好きでいて欲しい。この街の社会全体がそんな思いで街づくりをすれば、きっといい方向へ進むんじゃないかと思っています」。

そして、近年増加している高齢者を狙った犯罪も心配のタネだと付け加えた。「私の両親も高齢になってきましたし、函館でも被害が報告されていますから、対策は必要かと思っています。そこで、宣伝するつもりはないのが、NCVが始めた「玄関カメラ」というサービスはおすすめです。これは、家の玄関にカメラを取り付けると、外出先でもスマホで確認できるというもの。詳細はNCVのホームページを確認してください(笑)」。と思いきり自社の宣伝をされた。この濱谷さんのしたたかさを見て、会社が「出戻り社員」の彼女を、快く再雇用した理由がよくわかった気がした。

# 菅一樹

函館 高屋書店 館長



## Kazuki Suga

### PROFILE

京都府生まれ。大学までを京都で過ごし、卒業後、CCC(カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社)に入社。岡山のTSUTAYAからスタートし、その後京都、広島、湘南、二子玉川、浦和とキャリアを積んできた。同じくCCCに勤務する妻と、高校2年の長男、中学1年生の長女の4人家族。

1 994年、函館市と市民団体の協力のもと、ロシア・ウラジオストク市にある「極東連邦総合大学」の日本校として開校した「ロシア極東連邦総合大学函館校」。現在、同校の校長を務めるのがデルカーチさんだ。ロシア・シベリア連邦管区、イルクーツク州の州都であるイルクーツク市、バイカル湖の西岸に位置するこの街で生まれたデルカーチさんが、極東連邦総合大学を卒業後、JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)の最初のロシア人グループの一人として来日したのは1995年のこと。派遣されたのは鳥取県庁だったという。国際課に2年半勤務し、縁あって函館にやって来たのは1997年のこと。それから28年経ち、出身大学の姉妹校で校長職に就くこととなった。

社会人となってからの30年間を、ずっと日本で暮らしているデルカーチさんに、外国人から見た函館の現状と将来について話を伺った。

「例えば鳥取県全体の人口は50数万人で、県庁所在地の鳥取市は人口18万人です。函館よりも少ない。本州ならば県庁所在地であってもおかしくない規模の街なのに人がどんどん減っていくのは、子どもの数が減っていることはもちろんですが、函館から出ていく若者の数が多いという問題が大きい。それはやはり地理的なハンディも大きいからだと思います。札幌へ行くにも東京へ行くにも時間とお金がかかり過ぎる。新幹線が開通したとしても東京へは4時間もかかるし、値段も高い。場合によっては航空チケットの方が安いというの是不思議ですね。やはり青森や札幌、東京などへは、安い交通費で手軽に行けるようになって欲しいと思います。函館は文化的な価値もあり魅力の多い街です。地理的ハンディキャップが改善されれば、人の流出は抑えられると思いますし、逆に

2 013年にオープンし、今年12年目を迎える函館 高屋書店。現在も平日、週末を問わずたくさんの方が訪れる。しかもそのほとんどが、観光客ではなく地元客だという点で、函館では稀有な場所だ。

高屋書店を運営するCCC(カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社)が、東京・渋谷区の代官山 高屋書店に次ぐ2号店として、開店場所を選んだのが函館。オープン当初「なぜ函館?」という声が市民の間に多かったことは事実だ。

少子高齢化、価格競争、そして何よりインターネットがリアル店舗に与えた影響は大きい。街なかの書店がどんどん姿を消していく中、全国各地で展開していたレンタルのTSUTAYAに変わり、新しいビジネスモデルであった「高屋書店」を地方で展開していくことは必然だったのかも知れない。そして函館が人口20万人を超える規模の街ながら、駐車場を含め9000坪の広大な面積を確保できるというアドバンテージも大きかったことは確かだろう。オープンの際、「この街には文化的な土壌がある。そこにさまざまなカタチの“たね”をまきたい」と掲げた開業時の理念は今も変わっていないという。“文化的な土壌。が本当に函館にあったのかはわからないが、市民にとって函館 高屋書店が無くてはならない場所になっていることは確かだろう。

昨年春、この店の新館長として函館に赴

任したのが菅 一樹さんだ。これまで、湘南T-SITE館長、二子玉川 高屋家電店長、浦和 高屋書店店長を歴任し、過去には、広島T-SITE・広島 高屋書店の立ち上げに参加した経験も持つ。

「函館に来る前は、浦和 高屋書店に勤務していました。JR浦和駅の北口改札を抜けると同じフロアにある店です。郊外型の店ではありませんので、函館 高屋書店とは異なります。郊外型の店ではありませんが、この街にあってよかったと言っていただけの店づくり、それが私の役割だと自負しています。大切なのは「変えるべきものと、変えてはいけないもの」を見誤らずにやっていくことだと思います」。

また、函館 高屋書店は本屋であるというところを、一度立ち止まって再確認したいと菅さんは言う。「出版不況が続く中で、それでも実際に手に取る本の触りや、偶然目にとまった一冊との出会い、そんな体験をこの街からなくさないという気構えと覚悟は持ち続けていきます。借越ですが、函館 高屋書店がその防波堤になればと思っています」。

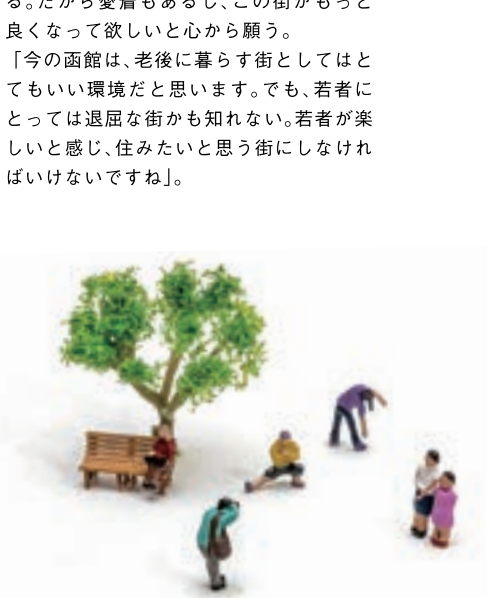
現在、ご家族を横浜に置き単身赴任中の菅さんは、運転免許証は持っているもののペーパードライバーだったという。「こちらに来る時、移動手段として自転車は持ってきたんですが、これじゃ生活ができません」とすぐに理解し、クルマを購入しました。北国の生活を舐めてましたね(笑)。

菅さんが初めて函館 高屋書店を見て感じたことは、人の多さだったと言う。「まず、平日のお客様の数が多いことに驚きました。私が以前勤務していた湘南や二子玉川、浦和の店よりも函館の方が多くかも知れません。しかも年齢や性別を問わず幅広い層のお客様がいます。その中には、週に何度も来店されるリピーターの方もいらっしゃる。これだけ地域に密着していて、みなさんから必要とされている店があるのかと驚きました」。

函館 高屋書店は、開店当初から「新しい居場所づくり」を掲げ、これまでの10年間、それを貫き通してきた。地域でコミュニティ活動を続ける人やグループに門戸を広げ、様々なイベントの場を提供し、人と人をつなぐ役割も担ってきた。「函館の街には、遊びに行きたいと思える場所が少ない」という声をよく耳にする中、この店には今も人が集まり続けている。

そして、この先の10年、函館 高屋書店をどのようにしていくかと菅さんは考えているのだろう。

「基本的に、地域に密着した店づくりとい



## Derkach Fedor

### PROFILE

1969年、ロシア・イルクーツク市生まれ。極東国立総合大学東洋学部卒業後、鳥取県総務部国際課国際交流員となる。1997年からロシア極東連邦総合大学函館校に勤務し、2024年より校長。ロシア語文法、通訳翻訳入門、ロシア文化史の授業を担当する。

う、これまでの姿勢を変えるつもりはありません。ただ、10年の間に少しずつ溜まったオリのようなものはあるかもしれません。それをしっかりと見極める作業は必要だと思っています。また、これまでと同じことを繰り返すだけでは飽きられてしまいます。時代に沿った魅力ある提案をし続けることは必須です。10年後、函館のみなさんに「高屋書店がこの街にあってよかった」と言っていただけの店づくり、それが私の役割だと自負しています。大切なのは「変えるべきものと、変えてはいけないもの」を見誤らずにやっていくことだと思います」。

菅さんが初めて函館 高屋書店を見て感じたことは、人の多さだったと言う。「まず、平日のお客様の数が多いことに驚きました。私が以前勤務していた湘南や二子玉川、浦和の店よりも函館の方が多くかも知れません。しかも年齢や性別を問わず幅広い層のお客様がいます。その中には、週に何度も来店されるリピーターの方もいらっしゃる。これだけ地域に密着していて、みなさんから必要とされている店があるのかと驚きました」。

函館 高屋書店は、開店当初から「新しい居場所づくり」を掲げ、これまでの10年間、それを貫き通してきた。地域でコミュニティ活動を続ける人やグループに門戸を広げ、様々なイベントの場を提供し、人と人をつなぐ役割も担ってきた。「函館の街には、遊びに行きたいと思える場所が少ない」という声をよく耳にする中、この店には今も人が集まり続けている。

そして、この先の10年、函館 高屋書店をどのようにしていくかと菅さんは考えているのだろう。

「基本的に、地域に密着した店づくりとい



# フedorカドールチ

ロシア極東連邦総合大学函館校 校長

な教育機関がもっと増えてほしい。それは学生のためにもなりますが、街が賑わうことにも繋がります。

デルカーチさんは、ロシアにいた頃に函館の写真を見る機会があり、その地形のユニークさに興味も持ち、一度訪ねてみたいと思ったという。まさかその街で自分が暮らすことになるとは思っていなかったが、振り返ると、ロシアで暮らした年月よりも長い時間を函館で過ごしていることになる。だから愛着もあるし、この街がもっと良くなって欲しいと心から願う。

「今の函館は、老後に暮らすとしてはとてもいい環境だと思います。でも、若者にとっては退屈な街かも知れない。若者が楽しいと感じ、住みたいと思う街にしなければいけないですね」。

「函館市内なら、バスや電車、天気の良い日なら自転車でも移動できますが、郊外へ行くには車がないとかなり不便ですね」。

そして、函館がこの先どんな街を目指すのかというビジョンを明確にしなければいけないとデルカーチさんは言う。「もしも本気で国際観光都市となってたくさん外国人を迎え入れたいのなら、ローコストな航空会社の参入とアクセスの良さは必須です。街中の外国語表示ももっと整備したほうがいい。また、思い切って緑の島に出島を作り、オールナイトのナイトクラブを用意するぐらいのドラスティックさが欲しい。ただし、その代償は大きいです。街の穏やかさは諦めることになりやすい。秩序も乱れます。中道というのは難しい。それだけの覚悟が必要です」。

労働者として外国人を受け入れる場合は、より大きな覚悟を持たなければいけないとも言う。「日本は外国人がカルチャーショックを感じるぐらい「きまりの国」です。しかし、多くの外国人を受け入れて、この国で働くということは、この社会が変わるということです。そうなれば、全てが嬉しいことばかりではないかも知れません」。

そして、函館は教育にもっと力を入れるようになって欲しいと思います。函館は文化的な価値もあり魅力の多い街です。地理的ハンディキャップが改善されれば、人の流出は抑えられると思いますし、逆に



# 10年後のこの街のためにできること。

●函館市の生活保護率の高さはご存じの通り。ならばいっそ、ベーシックインカムを導入しては？サイゼリヤに行列を作るのだから、大企業が消費の場所として期待するかも。空き家を安く貸し出すのもアリ。函館は仕事はないが、「生活するには良い場所」だと思うからこそ意見。（40代・男性）

●サイクリングロードを整備してほしい。コンパクトな街を活かして自転車移動が主流になるといい。（20代・女性）

●インターネットで何でもできる時代だけどあえて対面の文化の強化！大きな商店街ができて食べ歩きがしたい！（20代・女性）

●10年後も四季を感じられる町であってほしい。このままだと雪の降らない冬が当たり前になってしまいそうなので。それと、やっぱり函館は春の桜がきれいなので、今のように色々な場所でお花見を楽しめるといいな。（40代・女性）

●観光客が函館の自然環境保護に協力し、それが観光客自身にもポイント等で還元される仕組みがあるとよい。例えば、現在もホテル連泊時清掃不要「エコプラン」はあるが、そのようなものや使い捨て食器不使用に対してポイント付与、公共交通機関利用にてポイント付与などなど、生活の延長である部分にはもちろん、ゴミ拾いや公園整備など直接的に環境に関わる活動参加でポイント倍増。観光客と係る経済効果とともに、環境負荷が比例して増えは意味がない。（40代・女性）

●雪がきロボット、つらら落としロボットが欲しい！いっそのこと、雪で発電してほしい！（50代・女性）

●10年後だと健康面も色々気になってくると思うので、遠隔医療なども発達して、函館にいながら充実した医療サービスが受けられるようになっていたらいいなと思います。（40代・女性）

●最近の高齢化率を考えると、車は自動運転の方が安全な気がする。街としてどんどん自動運転車を取り入れてはどうだろう。ただ、自動運転は雪に弱い。北海道の中ではあまり積雪が多くないので、テスト地としてはどうだろうか。（50代・男性）

●イスラム教徒も暮らしやすい街として有名になるのはどうですか？函館には色々な宗教の建物があります。街にモスクが2つくらいあると嬉しいです。（20代・女性・インドネシア出身）

●路面電車を延伸して、エコな街に。乗り捨てできるレンタル自転車やスクーターが街のあちこちにあり、住民も観光客も利用できるようにしてほしい。（40代・女性）

●函館縄文文化交流センター周辺や恵山をもっと整備して、アクセスしやすくし、観光客がもっと来るような工夫がきてほしいと思います。（40代・女性）

●環境負荷少ない公共交通網の維持・増強。市電延伸、鉄道網やバス路線との連携など。言語や身体的にユニバーサル・デザインに配慮した公共交通の発達。（40代・女性）

●車を持たずに生活できる街になってくれると嬉しいです。公共交通の充実もそうですが、カーシェアで済ませられると金銭的にも助かります。（20代・男性）

●函館出身の横網誕生！（60代・男性）

## 函館の未来について思うこと。questionnaire 読者アンケート

●市として食料自給率アップ！銀座で牛飼うのは無理でも、函館駅のあたりなら畑作できそうな気がする。大門グリーンベルトを、名前の通りグリーンに！少し整備すればハーブぐらいなら育たないかな？（40代・男性）

●水族館が欲しい。年バスで孫と通いたいです。メイン水槽は巨大イカで。（60代・女性）

●函館に住む外国人が増えて国際交流が当たりまえの街になるといい。異文化・新しい文化を受け入れられる柔軟な街になったら素敵です。（20代・女性）

●キャリアを活かせる仕事が見つやすい街になってくれるといい。函館は魅力的で好きな街ですが、就職先は東京に決まりました。（20代・男性・中国出身）

●海外からのお客様は増えてますが、住民の人がもっと海外の文化に触れられる機会があれば良いと思います。子供に「世界は広いんだよ」と教えたいです。海外の文化に触れられるイベント、中長期のプログラムがあると嬉しいです。（30代・女性）

●本州や海外へ安く旅行に行きたいし、来てもらえるように、LCCを就航してほしい。青森以外に行けるフェリーがあると嬉しい。（20代・男性）

●海外への直通便がもっと増えてほしい。ブランドショップが増えてほしい。犬カフェが欲しい。（20代・女性）

●寝台列車を復活してほしいです。最近のホテルみたいな豪華な列車も良いですが、自分は天井が低くて、秘密基地感のある格安寝台が好み。函館は変に青伸びするより、「昭和っぽさ」で勝負した方がいい気がする。（40代・男性）

●迷路みたいな水族館が欲しいです。クイズに答えて、矢印の方向に進んでいくみたいな。あと、アザラシがたくさんいてほしいです。（10代・女性）

●若者が活躍できる町。就職先がないからと函館を出て行かざるを得ない若者の流出を止められるような、何か画期的な策が生まれているといい。（40代・女性）

●函館駅には、大丸デパートみたいなデパートと、若者好きな商店街などを併設してほしいです。（30代・女性・台湾出身）

●ハラルと食のお店がたくさんほしいです。もう一つは誰でも自由に使える滑り止め砂箱を市内に設置を増やしてほしいです。（20代・女性・マレーシア出身）

●仕事があれば、若者がいなくなるのは当たり前。ありとあらゆる手を使って企業誘致を。（50代・男性）

●地域通貨（その地域だけで使えるお金）を導入する。仮に、デジタル通貨で「函PAY」としよう。函PAYは市内のお店で使える。ボランティアへの参加、市民の健康増進のため歩いた歩数によってポイントもつく。ポイントは、水道料金などの支払いにも利用可能。ふるさと納税の返礼品としても函PAYは選択可能。（40代・女性）

●緑の島が面白いテーマパークになって、元気な若者の街になったらうれしい。（30代・女性・中国出身）

●ハラルフレンドリーな街になってほしい。イスラム教徒の友人がいるが、一緒に買い出しに行ったとき、想像以上に食べれるものを探すのに苦労していることを実感したから。まずは表示だけでもいいから考えてほしいです。（20代・女性）



### Fuka Sekiguchi

#### PROFILE

青森県三戸郡五戸町生まれ。青森県立八戸高等学校から、北海道教育大学函館校へ入学。現在地域協働専攻国際協働グループ3年。環境保全活動を行う学生団体アースデイ函館実行委員会元代表。カフェ巡りが趣味。

●**本** 当は関東の大学に行きかっただんですよね。やっぱり都会に憧れていたの。それでも、高校の先生から国際関係に進みたいなら北海道教育大学函館校があるよと勧められたことがきっかけで函館にやってきました」と関口さん。出身地の五戸町は人口が約16000人という小さな町。広い面積に家が点在しており、関口さんの家の周りには2軒ほどの家しかなく、田んぼとりんご畑に囲まれていたという。小中学校は1クラスが10名弱で、全校生徒が40名と小規模だったので、高校から通った八戸市はとても大きな町に感じたという。

五戸町の隣り町八戸市で有名なものと言えば、毎週日曜日に開かれる巨大な朝市だ。太平洋を臨む館鼻岸壁に全長約800m、およそ300店が並ぶ。この朝市を目的に、毎回、地元客はもちろん、県外からもたくさんの観光客が訪れる。このイベントには、八戸地域だけでなく、青森県内から届く海産物、農産物が並べられ、ラーメンやそば・うどんなど、イートインが多いのも特徴的だ。子どもの頃は親に連れられ家族で、高校生になっても友人たちと一緒に楽しんで、地元客はもちろん、県外からもたくさんのお酒を飲まなくなったし、夜飲みに出歩く人も減っちゃいました。でも、そういう時代ならそれにあった「新しい商いのカタチ」ってきっとあるはずだし、それを発信できる若い人たちに門戸を広げて、周りもそれに協力していけば、大門が再生する可能性はあると思います。これから10年、私はそんなことに期待しながら、「杉の子」はできるだけ昔のままであり続けるよう頑張って、ただカウンターの中から大門の行く末を見守りたいです。

また、大学の地域プロジェクトでは7名のメンバーとともに、函館の中小企業が外国人の就労を進めるためのプロジェクトにも携わった。そこで、飲食や建設、工場などを訪問し、企業が求める人材と、外国人が就労するための課題なども感じる事ができた。3年生になると、北海道教育大学の交換留学生として、2024年7月から12月までの半年間、オーストラリアのシドニー工科大学へ留学。英語を中心に学んだ。そこで日本人2人、インドネシア人2名とシェアハウスで過ごしたこともいい経験となったという。「インドネシアの留学生が、ナンゴレンやサテを作ってくれて、私たちも揚げやトンカツを作ったり、みんなで一緒に餃子

を作ったりして、とても楽しかったです。これまで、海外に行っているいろんな人たちと出会う機会が多かった関口さんには、函館の若者を見ていて思うことがある。「自分と同じぐらい年齢の人だけでなく、もっと積極的にたくさん大人のたちと関わりを持って、社会に参加したほうがいいと思います。そうすれば、それまでとは違った可能性が広がっていくんじゃないかと思っています。限られた枠の中だけで物事を考えていると視野が広がらない。それは私が海外へ行って強く感じたことです」。

また、関口さんは、若者ももっと環境問題に目を向けるべきだと感じている。彼女が1年生の時から関わっている「アースデイ函館実行委員会」では、海岸のゴミ拾いや環境を考えるワークショップ、そして温暖化防止のためのイベントへの参加など、毎回、地元客はもちろん、県外からもたくさんの観光客が訪れる。このイベントには、八戸地域だけでなく、青森県内から届く海産物、農産物が並べられ、ラーメンやそば・うどんなど、イートインが多いのも特徴的だ。子どもの頃は親に連れられ家族で、高校生になって友人たちと一緒に楽しんで、地元客はもちろん、県外からもたくさんのお酒を飲まなくなったし、夜飲みに出歩く人も減っちゃいました。でも、そういう時代ならそれにあった「新しい商いのカタチ」ってきっとあるはずだし、それを発信できる若い人たちに門戸を広げて、周りもそれに協力していけば、大門が再生する可能性はあると思います。これから10年、私はそんなことに期待しながら、「杉の子」はできるだけ昔のままであり続けるよう頑張って、ただカウンターの中から大門の行く末を見守りたいです。

また、大学の地域プロジェクトでは7名のメンバーとともに、函館の中小企業が外国人の就労を進めるためのプロジェクトにも携わった。そこで、飲食や建設、工場などを訪問し、企業が求める人材と、外国人が就労するための課題なども感じる事ができた。3年生になると、北海道教育大学の交換留学生として、2024年7月から12月までの半年間、オーストラリアのシドニー工科大学へ留学。英語を中心に学んだ。そこで日本人2人、インドネシア人2名とシェアハウスで過ごしたこともいい経験となったという。「インドネシアの留学生が、ナンゴレンやサテを作ってくれて、私たちも揚げやトンカツを作ったり、みんなで一緒に餃子



いお店もいっぱいありましたしね」。

青井さんは、大学進学と卒業後の会社員時代、そして結婚後の夫の転勤などで80年代末から90年代末までの間に、函館を離れていた時期がある。そして帰省する毎に慣れ親しんだ大門の風景が変貌していく様子を、まるで定点観察するように見つめ続けてきた。

「結局いろんなものがなくなっていったまいましたが、その転期となったのは1988年に青函連絡船が廃止されたことが大きいと思いますね。連絡船に乗って北海道第一歩の地が函館だった時代が終わって、旅情みたいなものが失われてしまった。その頃から大門の賑わいも、訪れる人の雰囲気も変わっていったように思います。そして映画館もなくなっていき、洋服屋さんや喫茶店みたいな若い人が楽しめる場がどんどん減って行ってしまったんですね」。

昔からあった建物が次々に姿を消し、空き地も目立つ大門地区。ランドマーク的存在だった旧樺二森屋も新たな建物に建て替えられることが決定している。青井さんが青春時代を過ごした大門とはまるで変わってしまった現在の姿は、彼女の目にどう映っているのだろうか。

「確かになくなったものが多くて寂しくなりましたが、新たなものも生まれているように感じるんです。2000年代以降、若い人が古着屋さんや自転車屋さんを開いたり、ネイティブアメリカンの小物やアクセサリーを扱う店や駄菓子屋さんもある。最近は、ネパール人の方がカレー屋さんや居酒屋さんを始めたりもしています。そうやって、これまでとは違った感性を持った人たちがもっとたくさん現れて、大門をまたおもしろい街にしていってほしいなと思います。昔だって、新しいことを考える若い人たちはおおいでした。でも、みんな歳を取っちゃったんですけどね（笑）。そもそも、昔を懐かしんでばかりいても何も変わらない。映画館で映画を観る時代ではなくなったし、買い物もネットで済んでしまいます。最近は、若い人があまりお酒を飲まなくなったし、夜飲みに出歩く人も減っちゃいました。でも、そういう時代ならそれにあった「新しい商いのカタチ」ってきっとあるはずだし、それを発信できる若い人たちに門戸を広げて、周りもそれに協力していけば、大門が再生する可能性はあると思います。これから10年、私はそんなことに期待しながら、「杉の子」はできるだけ昔のままであり続けるよう頑張って、ただカウンターの中から大門の行く末を見守りたいです」。

当時、周辺には20軒ほどの映画館が存在し、1959年にオープンした彩華ビルには道内初の回転展望台が設置され、樺二森屋屋上には観覧車が登場したということを見ても、当時の大門の活況ぶりがわかる。ちなみに、売春防止法が完全実施され大森町に25軒あった遊郭が転業を迫られたのも、大門通り沿いにあった商店街アーケードに照明が取り付けられたのも、「杉の子」の開業と同じ1958年のことだ。

「私が物心ついてから、大門のことをしっかり記憶しているのは1960年代の後半くらいからですね。70年代の大門って、ものすごく混沌としていて、いろんな店がありました。朝から夜までお店がやってるから、いつ来ても楽しめる場所だったんです。昼間、デパートの大食堂が小さな子ども連れの家族で賑わっていたり、若者が洋服を探し回ったり。そして陽が沈むと、ネオンや赤提灯が灯って大人の街に変わる。あやし



# 青井元子

## 今

年で開業から67年となる「舶来居酒屋 杉の子」は、現在の店主・青井元子さんの父・杉目泰郎さんが、1958年、大門柳小路にオープンした店だ。山小屋を思わせるような入り口の三角屋根が目印のこの店は、開業当時からビジネスマンや学生など、年齢・職業、性別を問わず多くの常連客が愛され続けてきた。そして2007年に泰郎さんが他界した後も、妻の千鶴子さんや青井さんが周囲の協力も得て店を継続。2015年、大門仲通りの中華料理店「汪さん」が入っていた建物に移転し、現在も営業している。

「杉の子」が開業した1950年代後半から60年代の大門地区といえば、樺二森屋や彩華ビル、和光デパートといった百貨店の他、洋服屋や靴屋、貴金属店などのさまざまな商店や、喫茶、洋食、中華などの飲食店が混在し、裏通りにはバーやクラブ、キャバレーといった夜の街の顔も兼ね備え、昼夜を問わず連日おおぜいの客で賑わっていた。

当時、周辺には20軒ほどの映画館が存在し、1959年にオープンした彩華ビルには道内初の回転展望台が設置され、樺二森屋屋上には観覧車が登場したということを見ても、当時の大門の活況ぶりがわかる。ちなみに、売春防止法が完全実施され大森町に25軒あった遊郭が転業を迫られたのも、大門通り沿いにあった商店街アーケードに照明が取り付けられたのも、「杉の子」の開業と同じ1958年のことだ。

「私が物心ついてから、大門のことをしっかり記憶しているのは1960年代の後半くらいからですね。70年代の大門って、ものすごく混沌としていて、いろんな店がありました。朝から夜までお店がやってるから、いつ来ても楽しめる場所だったんです。昼間、デパートの大食堂が小さな子ども連れの家族で賑わっていたり、若者が洋服を探し回ったり。そして陽が沈むと、ネオンや赤提灯が灯って大人の街に変わる。あやし



### Motoko Aoi

#### PROFILE

函館市生まれ。市内の高校から大学進学のため上京。卒業後、東北新社へ入社。70年代末に函館に戻り、父の店を手伝う。結婚を機に一時函館を離れたが再び戻り、父の他界後、2代目店主として「杉の子」を継ぐ。2015年、現在の場所に移転。

【舶来居酒屋 杉の子】  
函館市松風町8-5 0138-23-4577

## 関口風花

北海道教育大学函館校  
国際経済科 3年





これはキリン、あつち猫…と一目でわかるものもあれば、「？」と首を傾げたくなるものもある。作者の石川久美子さんに尋ねると、それは彼女の空想の中の動物なのだという。どちらにせよ、石川さんの作るこの陶製のオブジェは、どれもがおおらかで可愛らしく、少し不思議で、そして美しい。彼女が楽しんで制作していることが、見る側にも存分に伝わってくるのだ。

石川さんが陶芸を始めたのは、24歳の時。市内の教室に通い始め、少しずつのめり込んでいった。しかし、当初は自分がまさか陶芸を仕事にするとは思ってもしなかった。

食器やアクセサリ、ボタンなど、自分が作りたいものを作るといのが石川さんのスタイル。制作は、成形→乾燥→素焼きの工程を経て、釉薬や陶芸用の絵の具を筆を使って着色し、全体に透明の釉薬などを塗って再度焼くといった手間のかかったもの。しかも思った通りの色を出すために、焼成温度にも細心の注意を払う。釉薬と絵の具の併用、しかも筆を使うというのもユニークだが、それはテクスチャーを大切にしたいという石川さんのこだわりだ。ただしこれには、経験に裏付けられた知識と技術が求められる。コレクターがいるほどの人気が高いが、「最近動物をあまり作れないので、今年はたくさん作りたい」とのこと。

**PROFILE**  
函館市生まれ。24歳から陶芸を始め、市内の工房で技術を磨く。34歳の時に独立し、陶芸工房studio claynoteを主宰。以降、全国各地の企画展、グループ展でも活躍中。作品の一部は、SUQ+（函館市宝来町27-13）で展示中。

**【陶芸工房studio claynote】**  
https://claynote.jimdofree.com  
Instagram : studio\_claynote

# CLIP GALLERY

## 石川久美子の 陶器の動物たち。

CERAMIC ANIMALS

# CLIP ZAPPING

March - April 2025



## これまでの経験を生かし、地元を活気づけたい。

PERSONS

**高** 校生の頃から、札幌などのバンド仲間とライブを行い、大きな音楽イベントでの受賞経験もあるという加藤さん。

「高校卒業後も、アルバイトをしながらバンド活動を続けていたんですが、あるオーディションに応募した時に、その事務所の方から、「君、俳優としてやってみないか」と声を掛けていただいた。それで調子に乗っちゃって、じゃあやりま

すかつて、21歳の時に上京しました(笑)。

そして、その翌年には主演として映画デビューを果たし、舞台やTV、CMなどにも出演。やがて劇団「東京サムライガンス」を自ら主宰し、脚本・演出・出演・映像編集、音楽デザインなど、全てを手掛けるという多才ぶりも発揮する。その一貫したデザイン性の高さから、初めて演劇を見た人でも見やすく飽きの来ない演出だと評価も受けた。その後も、北海道文化財団主催舞台創造支援事業の総合監修や、ロンドン・ブレイク1号2号の田村亮一、座との競演舞台など、順調に演劇人としてのキャリアを積んできた。

そんな順風満帆に見えた加藤さんに、突然起きたのは2022年の初め。突然、奥歯から出血し病院を受診した。

「そこで再生不良性貧血と告げられたんです。今思うとかなり無理をしちゃってたんですね。その時はも

う、生きることも考えられないうらいショックでした。

すぐに入院となり、クリーンルームで輸血するという日々が6カ月間続いた。病室のベッドの中で悶々とする日々を送っていた加藤さんは、少し体調が安定し始めると同時に、目まぐるしかった自分のこれまでの振り返りと故郷である森町で何かできないだろうかと思いついたという。そして、入院中にもかかわらず、チラシをデザインし、出演者にアポイントを入れるなど、準備を始めた。

退院後の同年9月の十五夜の夜、森町福荷神社を舞台に、振る舞いも揃きと即興演劇や音楽ライブと入場無料イベント「ナニモナイラスルヒ」を開催。一期一会プロジェクトという森町の仲間たちの協力を得てのイベントだった。その後、病状も回復してきたが、今も通院は続けている。以前のように無理はできない。それでもじっとしているのは性に合わないという加藤

さんは、昨年、大門地区に「パポ北斗星をオーブ」に店を、連日演劇や音楽仲間などが集まる場所になっている。

「なんとか拾えた命なので、体には気をつけますが、やりたいことはとことんやってやろうと思っています。役者、音楽家、絵描き、作家、カメラマン、詩人、表現が大好きなアーティストのみならず、そんな道南のアーティストの活動を応援したい人々が集まるイベントなども行って、街を盛り上げて行けたらいいなと思っています。」

**PROFILE**  
森町生まれ。函館西高校在学中はバンド活動に力を入れ、道内での音楽活動を経て2003年に俳優を志し単身上京。2004年、映画デビュー。その後、劇団「東京サムライガンス」のプロデュースも手がけた。2022年、東京から函館市に活動拠点を移す。



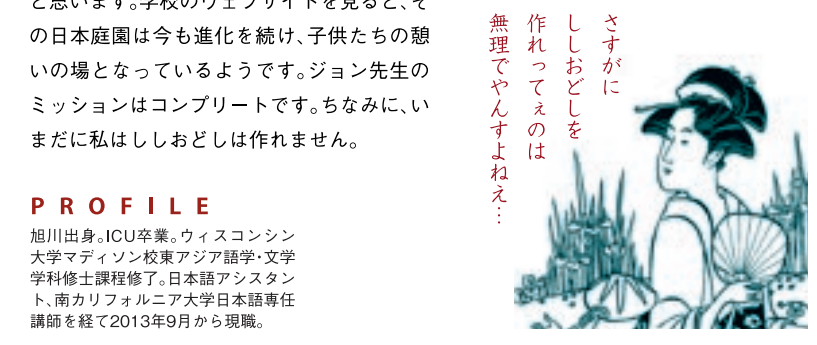
加藤隼平

パポ北斗星代表、はこだて観光大使

**市** 立函館高校の「函館学振り返り交流会」に参加してきました。1年生が学校の外に飛び出して活動してきたことを振り返り発表する会です。HIFの日本語日本文化講座夏期セミナーにも4名の生徒さんが参加されたので、その報告を聞きに行きました。HIFの他にも、子ども食堂や函館日本語教育研究会での活動で、外国の方と関わる機会があった生徒さんがいましたが、「自分ももっと日本や日本文化について学ばなければ」と感じました。

ふと、オーストラリアの小学校で日本語の先生のアシスタントをしていた時のことを思い出しました。日本語のジョン先生は、日本に住んでいたこともありかなりの親日家。ギター片手に自作のcolor songやnumber songを歌って、楽しく日本語を教えていました。ある日、「ここに日本庭園を造りたいんだ」と言って指さしたのが、プレハブの日本語教室の横にあった空き地。構想としては、まず入口に鳥居を作る。鳥居の上の方に木の札をつけるから、そこに書く文字は何がいいか教えてくれ。それが私に課されたミッション1。鳥居をくぐると飛び石があり、その先には池。そこに「ししおどし」を置きたいから、その作り方を教えてくれ。これがミッション2。結局私は役立たずに終わりましたが、私の任期中にその庭園は見事完成。文字は「平和」になりました。

日本や日本文化について知っているに越したことはありませんが、時に知らないものは知らない。ほかに大切なのは柔軟性かもしれません。「なぜここに鳥居？」と言ってしまっっては元も子もない。ジョン先生は、子供たちに日本的なものに触れさせたかったんだと思います。学校のウェブサイトを見ると、その日本庭園は今も進化を続け、子供たちの憩いの場となっているようです。ジョン先生のミッションはコンプリートです。ちなみに、いまだに私はししおどしは作れません。



## 元新聞記者・中川大介の【在南北思一南に在りて北を思う】

**ウ** クライナや中東での果てしない戦闘と痛ましい犠牲。米トランプ政権の「暴論」としか思えない政策。気の滅入ることが多い中で、さらに気の滅入る話を聞かされた。原発で使った核燃料の後始末のことだ。

1月、函館で開かれた「核のゴミ」の最終処分についての説明会があった。核のゴミを地中深くに数万年も埋める処分地の適地選定へ、後志の寿都町と神恵内村でおこなわれていた調査の結果が報告されて、質疑応答があった。詳細は新聞でお読みいただきたいが、国内で原発が稼働して半世紀以上たつのに、いまだ核のゴミの行方が定まらない現実を改めて突き付けられて、気持ちが悪くなった。科学の進歩によって良い「出口」が見つかるだろうと、根拠の不確かな楽観論の上に現代日本の産業や生活は築かれてきたのだ。

破綻が明白な核燃料サイクル(使用済み核燃料の再利用)はとっととやめるにしても、これまでにたまった使用済み核燃料の処分問題は残る。8年前に見た青森県六ヶ所村の使用済み燃料の保管プールはほぼ満杯だった。政府の進め方が信用できないとか、数万年も安定的に地中に保管するなんて非現実的とか、批判はいろいろある。でも、問題がさらに停滞すればツケは後の世代に回るだけだ。

核のゴミの始末は、電気を使う以上、向き合わないを得ない問題だ。厄介な使用済み核燃料をこれ以上、増やさないことが大前提だろう。ところが各地で原発は再稼働し、国のエネルギー計画には原発の更新や新型炉の開発を進める。とある。電気を使う半導体工場やデータセンターの稼働で電力需要が膨らむから、人口減の日本でも、もっと電気が要るのだという。

大量の電気を使う人工知能(AI)の急激な普及が電力需要を押し上げる。個人的にはAIに頼りたくない。でも、生活の隅々にAIは入り込んでくる。電力を食わないAIを早く開発してくれないのか。原子力なしに人は生きていけないのか。頼んでもいないのにAIを使ったインターネットの検索結果が出てくるスマホを見ながら、ひとり暗くなっている。

**PROFILE**  
岩手県生まれ。新聞記者歴30年。2022年退職し、函館で「編集工房かぜまち舎」を主宰。著書に『環の中に生きる』(かぜまち舎)『水辺の小さな自然再生 人と自然の環(わ)を取り戻す』(廣文館)。趣味は合気道、猫といること。



# ビブリオフィルの果てなき冒険。

夏井俊介 / 夏井珈琲・店主

## PROFILE

群馬県生まれ函館育ち。家業の飲食店経営の傍ら、趣味が高じて国内外のコレクターやアーティストたちから依頼された書籍の捜索や提案といった仕事とともに、日々日本に関する情報を発信している。

サム・ノグチは、日本だけでなく、本アメリカやヨーロッパ諸国でも高く評価され、非常に人気のある芸術家です。彼に関する書籍は国内外で数多く出版されており、手に取ったことのある方も多いのではないのでしょうか。

今回ご紹介するのは、1953年に美術出版社から発行されたモノグラフです。これまで見てきたイサム・ノグチの書籍の中でも、最もデザイン性に優れた、洗練された一冊だと思います。ブックデザインは亀倉雄策、作品撮影は土門拳、三木淳、ペレニス・アポット。テキストはイサム・ノグチ本人に加え、瀧口修造など、そうそうたる面々が関わっています。これほど豪華な布陣で制作されたにもかかわらず、希少性が高く市場にほとんど出回らないため、残念ながらあまり知られていない作品集

です。

以前、この本を海外の媒体で紹介した際、ニューヨークのイサム・ノグチ美術館から連絡があり、本の詳細について尋ねられたことがありました。先ほど述べたように、彼の書籍は膨大な数が存在するため、美術館側でも古く日本で出版されたこの本の存在を確認できていなかったようです。

また、アメリカで1937年に出版された、コンテンポラリーダンスのバイオニアである舞踊家マーサ・グレアムの写真集には、ノグチが30歳のときに彼女とコラボレーションした舞台「フロンティア」の舞台美術が掲載されています。私を知る限りですが、その写真集がノグチの作品が写真で掲載された最も古い本です。

広く知られた人物ほど、まだ十分に認知さ

れていない仕事が多く、そこには新たな発見の余地があります。イサム・ノグチもまた、その魅力的な探求の対象であり続ける芸術家です。



ノグチ ISAMU NOGUCHI  
文：瀧口修造、亀倉雄策、レイアウト：長谷川三郎、写真：土門拳ほか  
美術出版社（1953年）

### 明日が見えない。

平野陽子 / フリーライター

「石」橋を叩いても結局渡らない慎重派「海外は欧米よりアジアのほうが向いています」「青いものを持つ」「株はやめとけ」「完全に大器晩成」「食欲の相がある」「きれいなものを売りたい」「陽子を浮子に変えたら、あなた1年後私に感謝するよ」「午（う）ま年にはいろいろな馬がいますが、あなたは駄馬です。」

これらは、かつて占い師に言われた言葉の中で、特に印象に残っているものです。30代まで占い好きで、公私共に機会があれば占いに接してきました。私が知らないことを教えてくれる怖さときめき。その瞬間のドキドキが非常に良いのです。40代になってからは現実にも必死です。すっかりその世界から遠ざかっていたのですが、最近になってかつて占いに感じたドキドキとまったく同じ感覚を味わえるものに出会ってしまいました。何かというそれは、マッサージや整体、病院の健診です。いや待って、ちょっと話を聞いてください。

最初にそう感じたのは腰痛に悩んで

### 食べても食べても、明日が見えない。

マダム・ヨイコの



汁ものが定番の道南・冬の風物詩「ごっこ」、上生菓子で魅せる五勝手屋本舗さんが大好きです。3月の上生菓子です。ぜひおひとつ。

## PROFILE

函館生まれ。食べることも同じにたらないことにも興味、ダイエットとしての闘いも長い。Twitter / hi\_ra\_no\_45

マッサージへ行った際、こちらがづらいと伝えていないポイントで、こつこつというように指摘されたときです。かつてあなた男運ないでしよう！とスバリ言われたときの様子「そうなんだ（涙）、わかりますか（涙）」となりました。弱点を他者に理解してもらえ喜び、それだけでも癒し、あるいはこれ、そのうち反対側もつらくなっていますよ！という言葉、これもはや言葉しかかも確実に当たります。

で、その最たるものは健康診断です。あらゆる検査を受けた2週間後、自宅に届く検査結果はさながら運命鑑定書、あれを開くときのドキドキ、私知らない私のことがこの紙に記されている……！

なお、先日受けつけた鑑定書（検査結果）にはラニングの成果がテキメンに出ています。前回より中性脂肪が100下がって基準値内、心配だった血圧も大丈夫でした。占いよりタメになって、占いのようにドキドキできる健康診断、次回も我が運命をよりよく変えられるよう、精進していきます。

## TABATAの「音楽の処方箋」

### 第9回「明日からどうしたらいい？迷いと決断の中で聴きたい曲」

君はそう決めた / 坂本慎太郎

すっかり応募していたフォームから匿名のメールをもらった。「宅浪が決定しました。家から出たくない誰とも話たくない何もしたくないです」。この曲は貴方の背中手に手を添える曲であることは約束できる。

この歌の主人公である「君」は家にこもってきた。どれくらいの期間、どれほどの空虚感を抱えていたのかは語られず、目を覚ますと「突然」様々な欲望に支配されて、外に出ることを決意する場面からこの歌は始まる。繰り返し歌われる「また朝が来て/また夜が来て」というフレーズは、せっかく決断して外に出て、結局そこは内にこもっていた時の空虚と同じようだと言及する。だが外と内、似ていれば似ているほど、二つの世界の違う部分が浮き彫りになるのだ。

具体的な「この町で生きていく/宿題をしなから/そして単純なうそにドキドキしながら」「行く人を見ながら/そして肝心なことでしらけてみながら」という歌詞が指す、仕事やら生活やらの宿題のような義務感も、いっそ騙されたいと思うほどの優しいうそも、「君」が思わずしらけてしまう馴れ合いも、孤独のうちには存在しない。他人との関わり合いの中にしか存在しない。

冒頭、戸の内側から「君」が求めたジェットコースターみたいな「楽しみとか苦しみとか」とは違うかもしれない。ただ「君」が外に出たいと「そう決めた」決断と行動で享受した感情であることは違いない。いつかこの曲を聴く「君」のような誰かにとって、その「突然」はいつ来るのか分らない。だがその「突然」はいつ来てもいいように準備して見守っている、そんな曲だと思っている。

この曲のBPMは97。行進曲のBPM（120前後）と比較すればだいぶゆったり。歌詞もテンポも、人生なんて散歩くらいの感じではないんだよ、と坂本氏が言っているようにも思える。

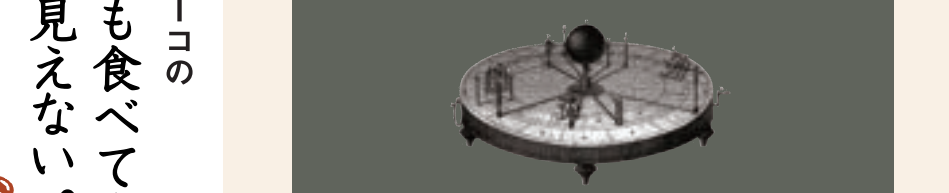
収録アルバム / 幻とのつきあい方 坂本慎太郎 2011年

PROFILE 北斗市谷好出身。シンガーソングライター。2024年1月17日にリリースした1st mini album「潮騒のよこがわ」はiTunes store フォークチャート1位、apple music、フォークチャート2位を獲得。

## 函館珍奇宝物博物館

HAKODATE STRANGE TREASURE MUSEUM

### 小宮伸二作品 ⑧



ん？デジャブ？と思ったそこのアナタ、正解です。前回このコラムで、受話器の左右から腕を出し、音声の代わりに手話で話してくれる、受話器ならぬ「手話器」という作品を掲載しました。今回はその続編。勘の良い方はもうお気づきでしょう。そう、見てのとおり「ジュワッ！器」でございます。…スミマセン。早々に謝っておきます。くだらないですね。ダジャレですね。ホントウにもう、ハズカシイ。受話器内部のマイクやスピーカーが外に飛び出して、まるで惑星のよう…とロマンチックなことを言っても駄目ですね。

実はもうひとつ「ジュラ器」というのもありますが、もうやめときます。ご想像にお任せします。今回はもっとマジメにいうと、じゅうぶん反省しております。（たぶん）

マッサージへ行った際、こちらがづらいと伝えていないポイントで、こつこつというように指摘されたときです。かつてあなた男運ないでしよう！とスバリ言われたときの様子「そうなんだ（涙）、わかりますか（涙）」となりました。弱点を他者に理解してもらえ喜び、それだけでも癒し、あるいはこれ、そのうち反対側もつらくなっていますよ！という言葉、これもはや言葉しかかも確実に当たります。

で、その最たるものは健康診断です。あらゆる検査を受けた2週間後、自宅に届く検査結果はさながら運命鑑定書、あれを開くときのドキドキ、私知らない私のことがこの紙に記されている……！

なお、先日受けつけた鑑定書（検査結果）にはラニングの成果がテキメンに出ています。前回より中性脂肪が100下がって基準値内、心配だった血圧も大丈夫でした。占いよりタメになって、占いのようにドキドキできる健康診断、次回も我が運命をよりよく変えられるよう、精進していきます。

この曲のBPMは97。行進曲のBPM（120前後）と比較すればだいぶゆったり。歌詞もテンポも、人生なんて散歩くらいの感じではないんだよ、と坂本氏が言っているようにも思える。

収録アルバム / 幻とのつきあい方 坂本慎太郎 2011年

PROFILE 北斗市谷好出身。シンガーソングライター。2024年1月17日にリリースした1st mini album「潮騒のよこがわ」はiTunes store フォークチャート1位、apple music、フォークチャート2位を獲得。

PROFILE 函館生まれ。多摩美術大学大学院卒。現代美術作家。大規模なインスタレーション作品を中心に、ヨーロッパやアメリカ各地でも個展等を多数開催している。

## 【心身ともにヘトヘトの自分を癒すためのアレとかコレとか】

松田夏海 / HIFスタッフ

### リポベジ・ネギ&リポベジ・小松菜

高い。高いです。数年前から物価高騰は感じていましたが、この冬は野菜が高かった。キャベツ1玉580円に我が目を疑い、「旬野菜なら安いはず」とほうれん草を手にとれば330円で、膝から崩れ落ちそうになりました。

そんなある日、私の中のスローライフ系マリー・アントワネットが言ったのです。「野菜が買えないなら、育てればいいじゃない?。」いや、冬に野菜を育てるのは無理が…と打ち消そうとした瞬間、思い出したのです。「リポベジ(再生野菜)」という手段があることに。

リポベジとは、野菜の残った根やヘタから、再び食べられる部分を育てて収穫する方法のことです。豆苗が有名ですが、実はネギ類や芋類、ピーマン類など、多種多様な野菜でできるらしいのです。

今まで豆苗のみ栽培経験ありの私。小松菜とネギに初挑戦してみました。小松菜は葉っぱの色が濃くて、たくましさを感じます。ネギは成長が早く、薬味にちょうど良い太さです。毎日水替えをしながら、愛でております。人生で1番、野菜を「かわいい!」と思う冬の日々です。



私のかわいい子たちです！奥/豆苗、左手前/小松菜、右手前/ネギ。



根が生えてきた小松菜(10日目) 頃、暖かい季節なら土に植え替えてもいいらしい。

### ベッドから這い出して、人類平和を願う

はがなつ / フリーライター

今日 日も生きづらい。午前5時のベッドで、迫り来る朝を呪いながら決心した。ええい、今日も寝て過ごしてやれ。助詞の「も」が示すように、実は昨日もほぼベッドで過ごした。このところ常に増して億劫なのだ。何もかもが。こうなると風呂も入れないし歯も磨けない(オソロシイけどウツにはよくある症状。——ところへ、ガタツと音がして何か落ちた。何だ？何もしてないのに。えーい、知らぬわ。構うものか。

明るくなってトイレに起きたら、足下に

「除菌」

お札発見。落ちたのはコレか！壁際の棚のつべんに落ちてかけてあるのが、突然の下。ひええええ。神様が怒ってる? 慌てて拾ったものの、きちんと立てかけるには脚立が必要なので、とりえず机の上に置いてトイレをすませ、再び寝た。寝ながらも一度考えた神様が怒っている。病気だから言い訳して寝てばかりいるから、怒っているのだ。例によってスマホで調べて、最近はおググるのではなくGoogleに聞いてみる。「神様やご先祖様からメッセージ」回落としてのサイン「お札の役目が終わった」単に物理的な理由でという4つの意味が念のためDeepSeekにも聞いたらこれらに加えて「幸運のサイン」と出てきた。しかも最初に「中国人、ポジティブ!」

で、私のとった行動は——。お札を納めに行くことにした(そこは律儀)。

そもそも昨年の初詣で授かったもので、気になってはいたのだ。ただ、その神社は人気パワースポットで混雑が激しいため、詣期間を延長して分散参拝を図っていた。なので、ついつい先延ばしにしていた。チェックしたら、明後日まで。ギリ、セーフ！やはり神様、神社なので正しくは仏様からのメッセージだったのだ。ベッドからお出なさいと。

翌日、朝いちばんのご祈願に間に合うよう家を出た。昨年の「厄除け」のお札を納め、迷った末に今年には少し積極的に「開運祈願」を選んできた。昨年もそうだったけど、お堂で聞く僧侶たちの読書は感動的だ。パチパチと音を立てて燃えさかる護摩焚きの炎、緩急のリズムで鳴り響く太鼓、こんな設定で声明しようみよう)を聞いたら、それはもう、ザツツンターテインメント！気がつけば、私利私欲を離れ、家族や知り合い皆の幸せ、ひいては人類平和を本気で祈っている私がいいるのだった。

さ、これで明日から寝ていても許される。

## PROFILE

函館市生まれ。父親の転勤で14歳から東京に移り住み、大学卒業後、編集プロダクションを経てライターに。現在は会社員の夫と2人暮らし。

## 函館の TIME FOR ART アートな時間。

大下智一 / 北海道立函館美術館・学芸員

2024年12月にシエスタハコダテで開催されたやなぎはらみさんの個展を見ることができました。やなぎはらさんは札幌生まれ。小学校のとき函館に移住し、高校までを同地で過ごした後、1998年に再び函館に戻ります。イラストレーターや漫画家の仕事を目指しているころ、函館のとあるカフェで手がけたポストカードや看板が、本紙編集を務める中村さんの眼にとまって、中村の営むカフェで定期的に個展を開くようになったそうです。

やなぎはらさんの個展にはさまざまなタイプの作品が並んでいます。どこかにある森のなかに暮らす、女の子とおしゃれな動物や鳥たちや空飛ぶ魚など、やなぎはらさん独特のファンタジーあふれる世界が広がる平面作品。一方の立体作品は、その絵画世界から飛び出てきたような作品たちが入った箱が積み重なって、まるでおとぎのくにのマンションみたい。本人いわく、個展会場は「小さなテーマパーク」を目指しているとのこと。「アリス・イン・ワンダーランド」を思わせる楽しさです。

その作品世界には物語的要素がいっぱいにつまっているように見えますが、やなぎはらさんに聞くと、はじめから具体的な物語があるわけではなく、描かれたひとつひとつの作品から、次々と連想されて新たな作品が生まれ、自分で創った感覚がないにもかかわらず、個展会場が全体的な物語に包まれるようになっていくといいます。作品たちが自ら世界を創っているよう

## PROFILE

函館市生まれ。幾度かの転勤を経て、現在北海道立函館美術館に7年ぶり3回目、都合21年目の勤務。

## 私の[思い出の味] / ベトナム

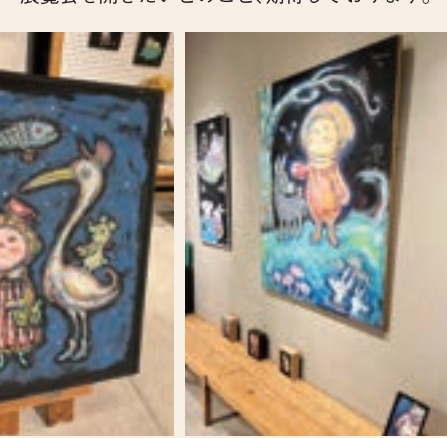
### 「手羽先のヌクナム揚げ」 Le Thi Yen (レー・ティエン)

昨年10月、留学生として函館にやってきたイェンさんの出身地はベトナム。ベトナム料理といえまずはフォーやバインミーを思い浮かべるが、イェンさんが思い出の味として挙げたのは、「手羽先の唐揚げ」だ。「この料理はとても美味しい。特にベトナムの子供には大人気です」というイェンさん。実際ベトナムではかなりポピュラーなメニューなのだという。手羽先をカラッと揚げ、ヌクナム、チリソース、砂糖、お好みでニンニクやパクチーなどを加えたタレを絡めれば出来上がり。しっかりとベトナム料理らしいエスニックな風味を感じさせつつも、日本で慣れ親しんだ手羽先の唐揚げに近い甘い味付け。イェンさんの言うように子供も美味しく食べられそうだが、ビールのつまみとしても間違いはないはず。材料さえ揃えれば簡単に作れるので、是非お試しを。

ヌクナムは小魚を発酵させて作る魚醤の一種で、ベトナムでは様々な料理に使われるポピュラーな調味料。タイ料理で広く使われるナンプラーに比べると発酵度が浅いため、香りが強く風味が薄いのが特徴。

な感覚は、いろんなジャンルの作家、特に物語を紡いでいく作家から多く耳にする言葉です。物語といえば、やなぎはらさんの作風は絵本との相性がよいと思っただけで、聞いてみたところ、「1コマ絵本」を作って見たいと言っていました。1コマで完結する短めな「大人のための絵本」、実に楽しみです。ご本人は誰かに後押しされないと、なかなか動かない性格だとのこと、どなたか押してあげてください。

さて、最後に2025年の予定を聞いてみると、昨年12月の個展の「続き」のような展覧会を考えているそうです。本人いわく「ゆる〜く」やっていきたい、そして来場した方たちが「きてよかった」「おもしろかった」「楽しかった」と感じるような展覧会を開きたいとのこと、期待しております。



4月4日より、入舟町の[tsu@the table garety]にて、やなぎはらみさんの個展が開催されます。詳細は19ページをご覧ください。





### 2カ月間のホストファミリー大募集！ ●第39回日本語日本文化講座夏期セミナー(通称「JJ」)

6月に30名の留学生が函館を訪れ、2カ月間滞在します。日本語や日本文化を学びに来るのですが、目的はそれだけではありません。数ある留学プログラムの中からこのJJプログラムを選んだ彼らの真の目的は「函館」、そして何よりも「ホームステイ」です。何年経っても函館を思い出し、ホストファミリーに会いに「里帰り」をするJJ卒業生が、毎年後を絶ちません。

今年の夏、そんな留学生との出会いの歩を踏み出してみませんか。HIFでは、留学生を受け入れてくださるホストファミリーを募集しています。留学生は日本語レベル中級以上で、個人差はありますが、日本語で日常生活を問題なく送れるレベルです。  
【受付期間】6/15(日)～8/10(日)  
【募集家庭】30家庭  
【申込締切】4/30(水)  
【ホストファミリー応募条件】  
・函館市、北斗市、七飯町にお住まい。(留学生がHIFに公共交通機関で通学できるエリア)  
・留学生に個室をご用意いただける。(和室・洋室・広さは問いません/鍵の有無も問いません)  
・ご家族全員の同意がある。  
・2食(朝・晩)をご用意いただける。



※謝礼として留学生から2か月で10万円程度のお支払い有。

【問合せ・申込み】  
TEL: 0138-22-0770  
E-mail: jj@hif.or.jp

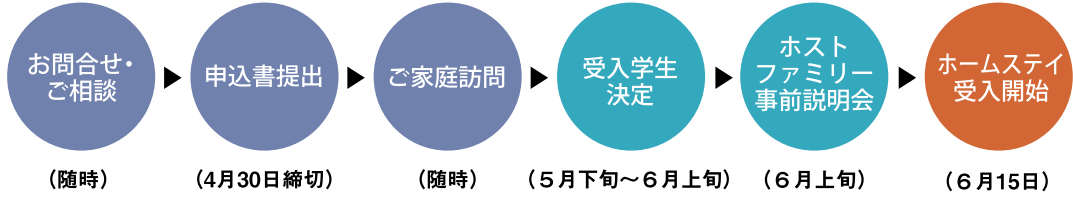
#### 【JJホストファミリー経験者の声】

●留学生のおかげで、我が家は以前よりも毎日笑顔でいることが増えました。多少コミュニケーションに時間がかかることもありましたが、ジェスチャー、絵で書いてみる、辞書で調べるなど、色々な方法で自分の思いを伝えるという過程がまた楽しく、伝わった時にはそれが満足感、達成感として得られました。

●はじめは不安もありましたが、とても楽しく、家族にとってステキな刺激になるように思います。留学生とは家族として生活し、今でも大切な家族です。わたしと旦那はまだ年齢的にお父さん、お母さんではないなぁと感じたので、留学生には自分たちの名前を呼んでもらって生活しました。普段の生活は変えず、ご飯の時もいらないから先に食べ、お風呂はご飯食べたらすぐと、約束をしながらう



【お問合せから受入開始までの流れ】



### ホストファミリーがはじめての方へ ●はじめてのホストファミリー個別お問い合わせ窓口

「ホ」ストファミリーに興味はあるけれど、いまいち想像ができない。あと一歩がなかなか踏み出せない」という方も多いのではないでしょうか。HIFでは昨年引き続き、今年も3～4月の期間限定で「はじめてのホストファミリー個別お問い合わせ窓口」を開設し、担当スタッフが様々な「？」にお答えします。予約不要です。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

【日時】  
3/4(火)、3/10(月)、3/19(水)、3/27(木)  
4/4(金)、4/7(月)、4/15(火)、4/23(水)  
時間はいずれも14:00～16:00

※他の日時をご希望の方は、ご連絡ください。  
【場所】北海道国際交流センター 函館市元町14-1 4階  
【問合せ】0138-22-0770  
E-mail: jj@hif.or.jp



### 話してみよう、やさしい日本語 ●セミナー・ワークショップ

「やさしい日本語」とは、文法・言葉のレベルや文章の長さに対応し、わかりやすくて日本語のことに配慮し、1995年の阪神・淡路大震災の際、緊急速報や避難指示を理解できず、多くの外国人が被災しました。それをきっかけに、外国人にも迅速に正しい情報を伝えるための手段として、「やさしい日本語」の取り組みが始まりました。

日本語話者にとっては身近な表現も、それ以外の人たちからすると理解が難しいこともあります。在住外国人の増加や多国籍化が進む社会において、外国の方との効果的なコミュニケーションについて、話しながら学んでいきましょう。

【日時】3/15(土) 13:30～15:00  
【会場】函館市青年センター 2階会議室 函館市千代台町27番5号  
【講師】高橋かつ子 (たかはしかつこ) 函館日本語教育研究会(JTS)会長。日本語サポートスタッフ、函館日本語教室講師、外国児童生徒日本語学習支援者、未来大学留学生日本語講師など様々な日本語学習支援活動を行う。日本語教育能力検定試験合格、東北大学大学院日本語教育修士課程修了。  
【内容】  
・やさしい日本語と一緒に考えよう(グループワーク)  
・実際に話しながら効果的なコミュニケーションを体験してみよう(外国の方を交えたグループワーク)  
【参加料】無料  
【対象】ご興味のある方どなたでもOK  
【参加方法】



事前予約制。右下のQRコードから3/12(水)までにお申し込みください。詳しくは、北海道国際交流センター(HIF)のホームページもご覧ください。

太陽が輝き、レモンが実る、美しい地中海の島。日本人が思い浮かべるシチリア島はそんなイメージではないだろうか。ミラッツォは、シチリア島北東部に位置する小さな港町だ。パングラディッシュで生まれたヌハさんは、2歳のとき、家族とともにこの町に移り住んだ。

ミラッツォ1番の名所は、街全体を見下ろせる丘の上のミラッツォ城。ヌハさんの自宅からは歩いて30分程度の距離だったそうで、古城からの風景をよく写真に取っていたと

## イタリア・ミラッツォ Alii Nuha アリ・ヌハ ●マイホームタウン／私の故郷



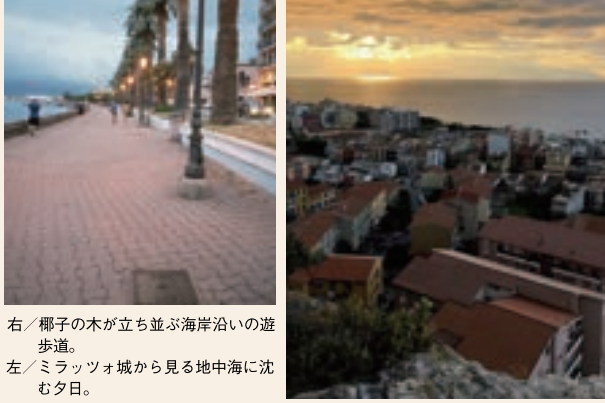
DATA  
シチリア島北東部に位置する人口3万人程度の港町、岬の頂上にあるミラッツォ城からは海と街並みが一望できる。港からは世界自然遺産の火山群島エオリア諸島行きフェリーが連続している。

いう。住民たちは海水浴や浜辺の散歩を楽しみ、新鮮な魚介類を使ったシーフード料理がこの町の名物だ。

のどかで美しい場所だが、ヌハさんには複雑な思いもある。シチリア島の州都パレルモとは違い、ミラッツォは外国人観光客が訪れることはほとんどない。現地の学校に通い、流暢なイタリア語を話すにもかかわらず、ヌハさんは時に「外国人」として扱われ、居心地の悪い思いもしてきたという。

その後、16歳の時に家族でイギリス・ロンドンへ移住。ミラッツォでは英語を使う機会がほとんどなく、当初は言葉の壁に苦労したが、好奇心旺盛な彼女にとって都会暮らしは

海沿いの町ミラッツォの全景



右/椰子の木が立ち並ぶ海岸沿いの遊歩道。左/ミラッツォ城から見る地中海に沈む夕日。

性に合うものだった。なにより、将来の選択肢が広がった喜びが勝っていた。

今のヌハさんの夢は通訳。多感な時期を過ごした小さな町での思い出や、辛い記憶を糧にして、彼女が世界を飛び回る日はそう遠くないだろう。

#### PROFILE

2024年9月初来日。ベトナム語、ヒンディー語、イタリア語、英語が堪能で、現在は北海道教育大学函館校で日本語を学ぶ。歌やダンス、楽器が好きで、独学でブレイクダンスの練習中。



## wander & wonder

●散歩・散策から思い巡らす過去・現在・そして未来。

### 第10話 春に残るもの 谷川真弓子

冬、防寒対策が面倒になりながらも雪景色を見ながら歩くことを楽しんでいたら、雪の場面が連続してその姿を見て、「寒冷地仕様ユキヒョウならともかく、野良猫は大丈夫なのか。足は寒くないのか?」と考えた。「冬の自然観察 野外活動」テキスト的なものに

居 住者として初めて過ごした昨冬、函館は拍子抜けするほど雪が少なかつた。そして、「適度に降雪・積雪が迎えたこの冬、防寒対策が面倒になりながらも雪景色を見ながら歩くことを楽しんでいたら、雪の場面が連続してその姿を見て、「寒冷地仕様ユキヒョウならともかく、野良猫は大丈夫なのか。足は寒くないのか?」と考えた。「冬の自然観察 野外活動」テキスト的なものに



#### PROFILE

東京都生まれ。高校卒業後、ニュージーランドへ渡り、リンカーン大学にて国立公園管理、クライストチャーチ教育大学にて中等教育教職課程を修了。帰国後、NPO法人、大学・研究機関等に環境教育、生態学研究に携わる。2023年5月からHIFスタッフ。

### 今号のCLIP外伝

中村ひでのり 本誌編集長

今号の特集で、ロシア極東連邦総合大学函館校校長のデルカーチ・フョードル氏取材させていただいた。以前から、氏は日本語が堪能で日本文化にも精通しており、とても優秀な方であるという話をたくさんの方から聞かされていたのだが、今回お目にかかるのは初めてだった。

実を言うと僕は、「そんな優秀な人間が函館のような地方の街に長年暮らし、小さな(失礼)学校で教員をしているのには、絶対に深い理由がある。きっと本国から何某かの指令を受けてやって来たに違いない」という、<sup>△</sup>デルカーチ氏は工作員。説を唱え、周囲から煙たがられ続けていた。しかも、フョードルと聞けば格闘技ファンなら誰もが知るあのエメリヤーエンコ・フョードルと同じ名前。ただならぬものを

#### PROFILE

北斗市(旧大野町)生まれ。東京でデザイン・編集の仕事をし、40歳の時にUターンして飲食店を起業。10年ほど前からまた元の仕事にも手を出し始める。

感じるのは、僕だけではないはずだ。ところが、実際にお会いした彼はとても気さくで、こちらのトンチンカンな質問にも人懐っこい笑顔で快く応じてくださるナイスガイ。完全に肩透かしを食らった感じだ。逆にもう少し殺気を纏ってくだされば、こちらの妄想も膨らみ楽しさも続いたのに少し残念ではある。

いやいやちょっと待て。極寒の地で揉まれた名うての工作員にとって、平和ボケした日本に暮らすトンマなジジイ1人を欺くことぐらいは、赤子の手を捻るほど容易いことだろう。おっと危うく騙されるところだったと我に帰り、「ミッション・インポッシブル」を観返して、心を引き締めるのだった。



#### PROFILE

函館市生まれ。「おまえもゴロゴロしてないで、何かやって稼げ!」とダンナに言われ、数年前「私イラストレーターになるわ」と突然決意し、instagramに作品をアップしたところ、仕事の依頼がポロポロ舞い込み出す。家のローンがたっぷり残っている4人の子どもの困。  
https://www.instagram.com/kotobanna/



# ひとり親支援さきがけの地で、問題に向き合い、奔走する日々。

2020年のコロナ禍あたりから、女性とのつながり支援、生理用品支援、ひとり親支援などの社会活動が全国的に増えているが、そのずっと以前からひとり親支援を行っていた団体がある。それが一般社団法人ひとり親家庭福祉会がさきだ。その活動は正に先駆的で、始まりは1950年に遡る。当時、戦争で夫を亡くした女性たちを支援する団体として発足し、1969年には法人格を取得している。相談、交流、研修など、総合的な福祉を行うのがこの団体の事業の柱だ。

現在、一般社団法人ひとり親家庭福祉会がさきの事務局長として、事業推進の中心的な役割を担っているのが山本倫子さんだ。1999年から長崎県社会福祉協議会に入局し地域福祉の推進、県民児協、児童障がい児・者支援、ボランティア、災害担当として従事し、長崎県全体の福祉を見る立場にあった山本さんは、より様々な困りごとを抱える人たち、そしてその現場に関わることをしたいと、長崎県社会福祉協議会を退職する。

「長崎市内のある家庭の支援に行った時に、マヨネーズやケチャップしか食べていない子どもに出会いました。もしも自分の子がそんな状況だったら、おなかいっぱいになるまで食べさせてあげたいと思いました。その後も、生活に困窮している親子がいる現実を日々突きつけられました。この現実をもっとおおぜいの方に知って欲しい、こうした支援が必要のない社会になることが私の夢なんです」と語る。

そして、2011年にひとり親家庭福祉会がさきへ入局し、同時にNPO法人Fineネットワークながさきを設立した。その翌年からは、長崎公共職業安定所福祉専門ナビゲーターとしても勤務。トリプルワークをしながら、一人息子の母親として育児もこなすという忙しい日々を送った。

更に、2016年度からは、市内2か所で「子ども食堂ながさき」を開所。2019年には食品ロスを利用して貧困を支えるための団体「つなぐBANK」を設立し、食料支援を行っている。

山本さんは、このような数々の仕事を自らの団体で手がける中で、ひとり親の雇用も積極的に行き、現在90人以上の自立をサポートしているという。

ひとり親家庭問題、貧困問題や居場所づくり、福祉教育、ボランティア、就労支援、ひきこもり支援、まちづくり、ソーシャルワーク等のテーマで、年間全国で50件以上の公演を行っている山本倫子さんが、3月に来函。HIF主催の「女性のための講演会」で、初の講演を行う。



山本倫子 (ヤマモトリンコ) 一般社団法人ひとり親家庭福祉会がさき 事務局長

**PROFILE**  
長崎市出身。2011年に一般社団法人ひとり親家庭福祉会がさきに入り、12年から現職。19年に結成した「つなぐBANK」は県や民間団体などと連携し、ひとり親家庭を総合的に支援している。

## CINEMA & BOOK

女性におすすめの映画 & 本

● **雪** 深い山荘で、有名作家サンドラの夫が転落死する。死体発見者は視覚障がいのある11歳の息子。これは事故か、自殺か、他殺か？ 起訴されたサンドラは裁判で無実を主張するが、その過程で夫婦関係の裏側——成功者として奔放に生きる妻と、作家を目指しながら育児や家庭の些事を引き受ける夫との確執が明かされていく。真相を巡るミステリーとして、丁寧に法廷劇として秀逸な本作が描き出すのは、最後にはそれぞれが「真実」と思うものを選び取るしかないという、人間存在の曖昧さと切実さだ。



監督 シュステイヌストリヒ  
出演 サンドラフリヒ  
出演 サンドラフリヒ  
出演 サンドラフリヒ

● **現** 実と幻想が交錯する物語世界が、深い余韻を残す短編集。表題作「紙の動物園」は、アメリカ人の父と中国人の母を持つ二世の母で涙活に間違いない。少年の頃、母が折る折り紙の動物に命が吹き込まれる魔法に心ときめいていた主人公は、やがて米国社会で生きるため、母とその文化を拒絶していく。そして、母の死後、遺された手紙の中で感動的な再会を果たす。SF的要素と巧みな構成に引き込まれる一方で、著者自身が移住者ということもあり、全編を包むノスタルジーが読み手の心に満ち満ちてくる。



『紙の動物園』(新☆ヤカワ404)シリーズ  
クリエイター 著  
吉沢英通 訳  
2015年 早川書房

## WOMEN'S SUPPORT

[女性のための講演会 & 食料配布]

HIFが運営する「ウイメンズサポート」は、2024年1月から2025年3月までに毎月1回、女性のための講演会を開催します。当日はフードバンクの食料配布の他、ゆっくりと休憩いただけるカフェも併設します。

3月 **なぜ、支援が必要なのか ~女性の自立支援を考える~**

日時 / 3月5日(水) 18:00~19:30  
場所 / 函館コミュニティプラザ Gスクエア イベントスペースA&B (函館市本町24-1 シェスタハコダテ4階)

講師 / **山本倫子** (やまもとりんこ) 一般社団法人ひとり親家庭福祉会がさき 事務局長

**PROFILE**  
2011年ひとり親家庭福祉会がさきへ入局。2016年度から長崎市内2か所で「子ども食堂ながさき」を開所。2019年10月に食品ロスで貧困を支えるための「つなぐBANK」を設立し、現在延べ7,372世帯20,710人に対し食料支援を行っている。(他左ページ参照)



## 子育て世帯向け 食品無料配布のご案内

北海道国際交流センターでは、子育て世帯やひとり親世帯に向けて、食料品や日用品の無料配布を定期的に行っています。

この度、北海道庁農政部を通じて、ホクレン農業協同組合連合会様より、ロングライフ牛乳をご寄贈いただきました。3月以降、複数回に分けて、子育て家庭の皆様へ配布いたします。

3月の配布日程

日時 / 3月15日(土)  
場所 / 北海道国際交流センター1階玄関ホール  
対象 / 大学生までの子どもがいる世帯  
申込方法 / 下記のGoogleフォームからお申込みください。

※これ以降の配布日に関しては、HIF公式ホームページにてお知らせいたします。



申し込みフォーム

## 海の向こうの「女」たちの事情。

「スイスの場合」 スイス女性、州別出身の2022年を来日。話し手 / フルル プロシユール 北海道大学水産学部博士課程在籍中。

**現** 在のスイスでは、教育や雇用において、男女が比較的平等であると感じられます。多くの家庭が共働きであり、女性の社会進出も進んでいます。一方で、お金の面で、家族との時間を大切にすることが難しくなっており、男女問わず週休3日で働く人は珍しくありません。中には週休4日のライフスタイルを選択する人もいます。日曜日はほとんどのお店が休業するため、この日に買い物をするのはほぼ不可能です。来日して、24時間営業のコンビニを見たときは本当に驚きました。子供たちも休暇が多く、夏休み6〜7週間、秋休み2週間、クリスマス休み2週間、2月にはスキー休みが1週間、さらに1ヶ月1ヶ月が2週間あり、休暇中は家族や祖父母と楽しむことが多いです。一方で、スイスには給食制度がないため、子どもたちは学校のある日は昼食時間に一時帰宅するのが一般的です。私の両親は医者で共働きでしたが、私の幼少期はオヘア留学生(ホームステイ)しながら、子どもも面倒を見て、給料をもらいながら海外で暮らす若者を受け入れていました。留学生たちが私がサポートしてくれたことがとても



印象に残っています。「結婚しないとダメ」といった社会的なプレッシャーは現在減少し、結婚しない人や籍を入れずにパートナーとして生活するカップルも珍しくありません。歴史的に多民族多言語国家であるため、他人に干渉せず、自分らしい生き方を選ぶ人が多いのだと思います。2022年には同性婚の合法化を問う国民投票が行われ、賛成多数で同性婚が法的にも認められました。

・本記事は、外国人女性に、母国の女性が抱えている悩みや困難について率直にお話いただいています。「話し手」というフィルターを通しての情報であること、ご理解ください。

## 函館市女性センター が主催する、3・4月の[講座]の中から注目の講座をピックアップ!

●講座名	●日時	●講師	●定員	●受講料等	●内容
自分だけは大丈夫? 騙されないための防犯講座	3/4(火) 13:30-15:30	沼田紀子 函館西警察署 生活安全課長	36名	無料	SNS犯罪、特殊詐欺、闇バイトなどから身を守るための知識を警察から学び、安心して暮らせるようにしましょう。
作ろう! わたしたちの居場所 ホットたいむ (LGBTQ 編)	3/8(土) 13:30-15:30	レインボー はこだてプロジェクト	10名 (申込順)	無料	性的少数者の方や家族の方が、ボードゲームやおしゃべりをしながら、気軽に交流できる場です。
知らなきゃ損する! 未来のためのお金の知識①②	3/14(金)・21(金) 18:30-20:00	若山竹見 ファイナンシャルプランナー	各36名	無料	賢いお金の使い方、今あるお金の増やし方など、未来のためのお金の知識をファイナンシャルプランナーから学びましょう。
旬を味わう 季節のお料理教室 (春)	4/16(水) 10:00-12:00	木下あやこ 中葉薬師専員 十二月のお料理教室主宰	12名	1,400円	旬を取り入れたからに優しい料理を季節ごとに学びましょう。メニュー/季節のヘルシー混ぜごはん・腸活ポタージュ他
癒しのテクニク セルフタッチング体験教室	4/19(土) 13:30-15:30	丹崎真由子 NPO法人 タッチケア支援センター 指導者	24名	無料	不安やストレスを和らげ、血圧や脈拍を安定させる効果のあるセルフタッチングを体験し、自分を労わる方法を学びましょう。
SNS 始めちゃいました 高齢者のための SNS 教室	4/22(火) 13:30-15:30	若山竹見 営業企画コンサルタント	20名	無料	スマホの便利な使い方がわからない高齢者を対象とした、SNSの使い方学ぶ講座。

※各講座の申し込み締め切りは、函館市女性センターまで。  
※募集対象は函館市民または市内在勤の方です。  
※申し込み多数の場合、抽選となります。  
※申し込みは、各講座に設定している申し込み受付開始日から、電話・ホームページ、または女性センターの窓口にて受け付けます。  
※詳細は講座ごとのチラシ、または「函館市女性センター」ホームページをご覧ください。また、女性センター館内には、約2カ月前より、講座受講者募集のポスターを掲示しております。随時ご覧の上お申し込みください。  
※託児可能な講座もあります。申し込み時に問い合わせください。

**函館市女性センター**  
函館市東川町11番12号  
TEL. 0138-23-4188 FAX. 0138-23-4189  
開館時間 / 9:00~21:00  
休館日 / 日・祝日・年末年始 (12/29-1/3)  
info@hakodate-josen.com  
<https://www.hakodate-josen.com>

3 March

4 April



● **「清く正しいオトナ養成講座」** 川村幾代 / 函館短期大学専任講師  
第7回 / ルッキズム大国? 日本。  
今 回はルッキズムについて考えたこと、思い、ルッキズムとは外見至上主義、つまり「外見による差別や偏見」のこと。私自身も意識はしているつもりですが、つい人の外見を口にしてしまいがちです。ところで、このルッキズム。より女性のほうが社会やメディアの影響を受けているというのでは、みなさんも同じ感覚を持っているのでしょうか? 例えば、伝統的にふくよかであることが好まれる「フィジー」という国の1995年の調査で、摂食障害は1例でした。その後テレビが普及し、海外番組が放送されるようになった3年後の調査では、11%の少女が摂食障害になっていたといわれています。彼女たちに影響を与えたのが、スーパーモデルが提示する理想のプロポーションなのか、ふくよかな女性を笑いのにするバラエティ番組なのか、その因果関係は分かりません。スウェーデンの暮らしや文化を発信しているある方が、自国のルッキズム事情をYouTubeで配信していました。その

中で、日本では「鼻が高い」「顔が小さい」「色が白い」は誉め言葉ととらえがちなのに、鼻の高さや大きさをコンプレックスに感じている外国人が多いと指摘していました。また顔が小さい「脳みそが小さい」と揶揄されることもあるそう。そもそも多様性の世の中で、肌の色へのコメントは人種差別になってしまっている。スウェーデンでは言わないそうです。そして、私自身も、もっと豊かな言葉で相手との内面の良さを肯定していきたいと

**PROFILE**  
函館生まれ。障がい者の相談員、行政の女性相談員を経て、現在は函館短大専任講師。専門は家庭支援論、社会的養護、小児保健など。







道南イベント情報いろいろ。

### 立川寸志 出演 まんまる寄席・シャカン寄席

北斗市の「地域食堂まんまる」と、函館本町の酒屋「シャカンセグー」、演芸関連のデザインを手掛ける「スガデザイン」が共同主催する寄席が開催される。第4回目となる今回は、元編集者で、44歳で立川談四楼に入門し落語家となった異色の経歴を持つ立川寸志さんが出演。夜席は初のGスクエア開催、昼席は落語会の前に寺内で坐禅体験会を開催する。

【出演】立川寸志

### シャカン寄席(夜席)

【日時】4/5(土) 16:30開場 17:00開演

18:45終演予定

【会場】函館コミュニティプラザ Gスクエア

函館市本町24-1 シェスタハコダテ4F

【料金】予約3000円 / 当日3500円 / 学生一律1500円

### まんまる寄席(昼席)

【日時】4/6(日) 10:00開場 10:30開演

12:00終演予定

【会場】慈眼山 広徳寺

北斗市中央2-3-14

【料金】予約2000円 / 当日2500円 / 学生一律500円

※まんまる寄席 無料託児サービス(要予約・予約締切3/22まで)

詳しくは広徳寺 0138-73-2032まで。

### 【まんまる寄席 坐禅体験会】

当日8時半より受付、9時より坐禅体験会を実施(要予約・予約締切3/22まで)

詳しくは広徳寺 0138-73-2032まで。



【予約・問合せ】

シャカンセグー

0138-87-2836(13時-19時 月曜日)

広徳寺・地域食堂まんまる

0138-73-2032(9時-17時)

### 函館西高等学校 美術部作品展

函館西高等学校美術部では「少しでも多くの人に作品を見てもらいたい」と函館市地域交流まちづくりセンター1階ギャラリーで、毎年作品展を開催している。今年は、美術部部員13名の約30作品を展示予定。それぞれの部員が1年間取り組んできた中で、思い入れのある油彩・平面の作品を中心に展示する。会期中の平日 16時～17時頃、休日の午前10時～16時頃には受付に美術部部員がいるので、気軽に声をかけてほしい。

【日時】3/13(木)～3/20(木)

9:00～21:00(最終日は16:00まで)

【場所】函館市地域交流まちづくりセンター1階ギャラリー

北海道函館市末広町4-19

### 2025 美術部 作品展

3/13～3/20

9:00～21:00

【会場】函館市市民会館 大ホール

函館市湯川町1丁目32-1

【料金】2,000円(全席自由)

※電子チケットのみ。購入はURLから。

https://teket.jp/8051/44426

### ビッグバンドによる 迫力のパフォーマンス

函館市青年センターで発足し、同センターを拠点に活動する「Big Band

F#(ビックバンド エフシャープ)の7回目となるライブ「Big Band F# LIVE 7th」が開催される。ビックバンドとは、ジャズやダンス音楽を演奏する大編成楽団を指し、F#は市内複数の音楽団体から集まった有志で活動している。今回のライブでは、クインシー・ジョーンズメドレーやルパン三世のテーマなど、多くの人が聞いたことのある名曲を多数演奏。迫力のパフォーマンスを味わってほしい。

【日時】3/22(土)

18:00開場、18:30開演、

20:10(終演予定)

【会場】函館市青年センター 体育館 特設ステージ

函館市千代台町27-5

【料金】無料※要入場整理券

【問合せ先】

函館市青年センター

0138-51-3390



### DOO-WOP Dance Studio 第4回発表会

函館市桔梗町のストリートダンススタジオDOO-WOP Dance Studioでは、スタジオ4周年を記念した発表会DOO THE RIGHT THING vol.4を函館市民会館で開催する。同スタジオは、子供から大人、未経験者からプロダンサーを目指す人まで幅広く指導中。情熱のパフォーマンスをご覧あれ!

【日時】3/29(土)

17:00開演(16:00開場)

【会場】函館市民会館 大ホール

函館市湯川町1丁目32-1

【料金】2,000円(全席自由)

※電子チケットのみ。購入はURLから。

https://teket.jp/8051/44426

### 函館野外劇、チームメンバー募集

P I C K U P NPO法人市民創作「函館野外劇」の会では、2025年の野外劇を支えるチームメンバーを募集している。劇中に出演する殺陣チームやダンスチーム、セリフ無しチームメンバー、舞台を緑の下で支えるボランティアスタッフなど、活動・業務は多岐にわたっている。参加条件やスケジュールに関しては公式ホームページをチェックしてほしい。

【公演開催日】

五稜郭公園会場

7/6、7/13、7/20、7/27の各日曜日

函館市芸術ホール会場

8/9(土)、8/10(日)

【申込み・問合せ】

NPO法人市民創作「函館野外劇」の会 事務局

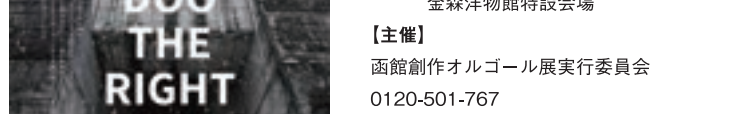
0138-56-8601

office@yagaijeki.com

【主催・問合せ】

DOO-WOP Dance Studio

doowop.dance.studio@gmail.com



### 子供たちの力作並ぶ 函館創作オルゴール展

金森赤レンガ倉庫金森洋物館特設会場にて、函館市内の小学生が製作したオルゴールのコンテスト「函館創作オルゴール展」が開催される。第14回のテーマは「わくわく!ドキドキ!」。子どもたちは、使用済みペットボトルや空き缶、牛乳パック、木箱など、身近な材料を用いて、自由な発想でオルゴールを製作。最優秀賞、優秀賞、佳作は、鑑

賞した人たちの投票によって決定するので、お気に入りの作品を見つけて、1票を投じてほしい。

【展示期間】3/1(土)～3/16(日)

【投票期間】3/1(土)～3/9(日)

【場所】金森赤レンガ倉庫 金森洋物館特設会場

【主催】

函館創作オルゴール実行委員会

0120-501-767

### 歌で街を元気に! 「歌楽(かがく)広場」

函館コミュニティプラザGスクエアで、毎月1回開催されている「歌楽(かがく)広場」。これはスタッフの相田日芽さんが「歌うことが大好きで、歌を通じてたくさんの人を笑顔にしたい」と自ら提案、企画したもので、季節の唱歌や懐かしい歌謡曲などを、ピアノやギターなどの生演奏とともに楽しむという話題のイベントとなっている。相田さんは、自らYouTubeの「はこだて発信チャンネル」という番組も制作。リポーター兼インタビュアーとして、撮影・編集担当の太友美維奈さんと道南の魅力を発信している。4月には「歌楽ひろば」の特別版として、「あいたひめ 春コンサート」の開催も決定した。「歌が好きならなどなたでもご参加を」と呼びかけている。

-----

### sumire ichi 2025

野生の植物を用いて染色した平面作品の制作、アメリカやヨーロッパから

-----

### 『航路 / kohro』春のイベント情報

P I C K U P 函館・十字街に存在する複合施設「航路 / kohro」では、「自然を敬い、文化を育み、地域循環する暮らし」をテーマに、ポップアップイベントなどを積極的に開催している。この春

開催予定のイベントの中から、2つをピックアップしてご紹介。

-----

【Nexus Vol.2 マルシェ】

新しくチャレンジを始める人の後押しイベント。初出店となるreyna coffeeのコーヒーや、Coco-Liliのペーパーアイテムなどを販売。yamayoshi coffeeのバスケットズケーキとキャロットケーキは数量限定で事前予約制。15時からさっちゃんライブも。

【日時】3/2(日)11:00～17:00

【問合せ】satsuki

@satsuki199709

-----

【手と手と展 ～循環～】

柿染染めの帽子や洋服、竹・山葡萄・アケビなどの素材を使い、東北で編まれた、ざるカゴ。その他、サステナブル

-----

【会場】

航路/kohro -2F

函館 鳥屋書店(石川町)

金森赤レンガ倉庫(末広町)

北海道国際交流センター(元町)

-----

### tsu@the table gallery

「ツ・アット・テーブル・ギャラリー」4月の展示

やなぎはらいずみ 個展 「春の日はルララ」

-----

今号13ページの連載コラム「函館のアートな時間」でもご紹介いる、やなぎはらいずみさんの作品がtsu@the table galleryに登場。様々な素材を使った立体作品や平面作品など、ちょっと不思議で、それでもかわい、やなぎはらワールド全開の展示会を、ぜひお楽しみに。

【日時】4/4(金)～4/27(日)

11:00～17:00

※火・水・木曜日は休館。

-----

【開催期間】

3/5(水)～3/9(日)14:00～19:00

【場所】room

函館市東川町11-1 東川イエローハウス

【問合せ】

@room\_hakodate

-----

【3月の歌楽(かがく)広場】

【日時】3/20(木・祝)

①11:00～12:00

②13:30～14:30

【会場】

函館コミュニティプラザGスクエア

函館市本町24-1 シェスタハコダテ4F

【定員】50名(予約優先)

【参加費】各回350円(飲み物付)

-----

【あいたひめ春コンサート】

【日時】4/26(土)13:30～

【会場】函館市民会館

-----

イベントの詳細は右のQRコードを。

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

### EDITORS' NOTES

●1963年に初めてテレビで放映された鉄腕アトムは、将来のロボット社会に憧れを抱かせた。それから60年余りでアトムの社会は現実になっている。これからの10年、地域にどんな変化が起きるのかも楽しみなことです。(池田)

-----

●人生の中で二度、初対面の人と話している時に(勝手に)占われたことがあります。その時に「あなたは目の前の木は見えないけど、その先の林や森は見えていない」と言われました。函館の未来を考える今号の特集は、そんな私の視野を広げさせてくれる機会になったと思います。(櫻坂)

-----

●先日、自分がある「ビョーキ(医学的処置が必要なものではなく、特殊な傾向)」持ちであることに気づいた。あまりにも納得がいくので人に説明しなくなっていた。少しお金に話すと、呆れられるか、何か頼まれるか、になりそうなので必至で隠している……。 (谷川)

-----

●最近、Net flixで「ワンピース」を第1話から観返しています。子どもの頃の懐かしさと、変わらない面白さに夢中です。ただ、観始めると止まらなくなるのがアニメの怖いところ。夜更かしはほどほどにしないとすね。(澤口)

-----

●どんな未来がやってきても、生きていける自分でありたいと思います。そのために、目指すべきは自給自足です(マジメな話です)。食べ物とエネルギーを自給して、少しのお金を稼いで、人と繋がりが楽しく暮らす。ということで、私は野菜を育てています。(松田)

-----

●6,261km離れている場所にいる親友と出会って16年。10年後も変わらず親友でありたいと思える人に出会えたことをしあわせに思います。(近藤)

-----

●私事です。車が手放して1年が経ちました。春～秋は自転車通勤。冬の間は市電で通勤しています。冬の移動中は読書をしてますが、移動中の読書ってなぜかほかどります。自分の部屋よりも集中できている気がして。その証拠に、降りるべき停留所の2～3個先まで行くことがしばしばです。(吉田)

-----

●今号の取材中に、本誌の文字が小さくて読みにくいと指摘された。実は、50歳を過ぎた頃から新聞を読む時も、本を読む時もルーペが手放せないほど老眼が進んだ自分も、制作中のPCの画面(かなり拡大して)で確認するだけで、紙に印刷されたCLIPはほぼ見えない。創刊の際、周囲に確認して決めましたが、今思えば彼らは自分より若い人間たちだった。これを機に、次号から特集の文字だけでも少し大きくしようと思っている。(中村)

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----